

凡例

- 現存する野田の手帳は、戦前の昭和5年に始まり、戦後の昭和42年に終わる46冊である。
手帳と一緒に見つかったメモには、1～57の通し番号があり、「1」は昭和5年のものだが、「57」は昭和43年、すなわち野田が没した年の手帳であるが、それはまだ見つかっていない。
つまり、この手帳を誰かが整理した時点では57冊あった手帳のうち、57－46＝11冊は未発見だと推定される。
- 野田の手帳は、主に「ミソ帳」「取材帳」的なものだが、そこに私的な記録や備忘録が混じり、あるいは図面や住所録となる。すなわち、野田は常時これを手放さず、取材記録や、印象深い新聞・雑誌の記事、人の話、思いつきのメモ、等々なんでも書きつけたと思われる。
- 手帳は、すべて横書きの、鉛筆書きである。
- 文中どうしても判読できない文字については、やむなく□□で表現した。
- 誤記と思われる部分には「ママ」とルビを振った。
- 繰り返し記号「く」を野田は、横書きであるにもかかわらず、しばしば使っているので、随所に出るそれをこの稿においても「く」と表記した。
(例:いろくあるが、)
- 文中に出る 【註】は翻刻者または解説者による。

●表紙 黄紙表 「1951」、SAKURA FILM と刻印。
裏 中央に型押し桜のマーク。
縦 108ミリ 横 75ミリ 厚さ 8ミリ

●扉見開きの右側には「寫眞の祖」ダゲール (Louis. J.Daguere) の写真があり、下に「撮影から仕上げまでの總ゆる機材は……さくら製品で」と印字されている。続くページに昭和26年(西暦1951年)および27年(西暦1952年)「七曜表」、次のページに「放射線スペクトル」の表がある。

●扉に「1951 DIARY」、その下、左側に「國民の祝日」、右側に「主なる米國の祝祭休日」。

次ページの「豫記欄」当該箇所に以下の記載がある。

1月12日 例月分 35の□□□

1月17日 日大講義、児井氏よりオリンピック招待。

1月21日 青木登君結納、先方大久保日出子

1月22日 ③麦、(但□□の内、十二月廿九日に⑩麦)

1月28日 山田の亡父 77忌、豊島由仁寿院

1月30日 ②麦

2月2日 永□□□□

2月3日 染井観能

2月9日「気まぐれ天使」市民座 例月分3.5の内2.8

2月16日「黒水仙」市民座

2月28日 ⑤麦

3月1日 コンクール・シナリオ賞選衡

3月5日 □村賞選衡

3月11日 コンクール、作品賞「また逢ふ日まで」脚本、監督「肉体の盛装」録音 神谷正和、カメラ 三村明。

3月12日 毎月分(2.8)

3月25日 青木登君婚礼

4月6日 22.7650税金

ママ
? 4月14日 毎月分(2.8)

4月30日 ⑧麦

5月28日 50000「□□」受取る

6月5日 ⑤□

6月20日 2.8(毎月)

6月30日 10(古) 二つにわけて、五日、十二日

7月10日 (2.8) 毎月分

7月31日 ⑧□積立の残り13、の内より受取る(7日□)あと(古)で15□□出し(□□4.5)。そのほか残額あり。

8月10日 2.8毎月分

8月20日 (5.4)残り分。宮□□の名義で受取る

9月10日 (2.8)毎

9月20日 ⑧古。

10月17日 ⑤小津□

10月19日 ⑤小津□

10月31日 ⑤小津□

11月12日 例月分

11月25日 サンモール修院 移動記念日

12月10日 (2.8)例

12月17日 ⑤小津□の内

●末尾に「Memo」欄20ページ、「さくら写真便覧」32ページ、「住所録」11ページが続く。

●奥付なし

- 横罫 ゼラ紙 見開き 月・日曜日の記載なし（「Memo」欄もなし）
- 今回の掲載は「昭和25年11月1日付」から「昭和26年12月31日付」まで。今回も『麥秋』関連記事をわかりやすくするために、それを太字で表した。
- なお、野田は『麥秋』の検討の開始を「昭和25年11月1日」からと書いているので、今回はその日の記述から始めることとした。

〔以下、日記本文〕

〔昭和25年〕

11月

1日

朝から仕事。漸くラストへの見当つく。□、トラちゃん来る、四日に課長達がコンクール一等のお礼にまだ嬉ってゐる由。小□ちゃんから脚本□のことを□いてくる。

2日

午後仕事。三時出発、玲子は伏見□□ちゃんのオペラへ。自分、大船から桜井君と一緒に、雅叙園の追放解除祝賀会へゆく。品川まで武一君岡本、□□。大船へ来た由。帰りに新藤、□井君などと同車

3日

朝、佐藤□□君来訪、□□タイムス、創刊のため2000□□、午後市民座□□。今□永井氏祝賀会。田中、□□□□女史来る。夜、馬場君来訪、平岡のトシが祝電をもらひに来る。

4日

小津君より電報今日監督会の前に根津美術館に行く由、六日に会ふ約束する。そのあと七日に湯河原へ行ける旨。武一君より電話□□、トラちゃん課長達をつれてくる。酒をもらふ。

5日

今日、日曜で誰か来るかと思ひのほか、誰も来ず。一日中仕事ができる。そばから玲子に清書を頼む。鮮人の学生、□□相談に来る。玲子、胸が悪いと云ふ。

6日

午後。シナリオを持ち出社。小出君に渡す。月森、中村両氏にも会ひ、ディマヂオが来ると云ふのを□□。遂ひに来ず。小津君と上京「無防備都市」をピカデリーに見る。東興園でソバ。ブルドックに寄る。

7日

ひる一時出社、三時十一分で湯河原、中西へ。その□、佐藤氏に□□で、雨も□□□から、降らずにすむ。見当つかず。□□とする。

8日

中西泊り。午後、池中君の「恋愛教室」□に□□ストリップの映画も見る。夜、□夫婦モノにしようかといふ話になる。

今氏の「□□□の□□□□□□研究」を読む。

9日

中西泊り。相談捗らず、晝寝。ストーリーの相談、□夫婦と□□□□□□などにしてはどうかといふだけでなく発展せず、夜一時に及ぶ。

10日

□□泊り、ストーリー一向に進展せず、ミソの□□な話ばかり、三時十四分で帰り、□□に□る。雨になり、傘をかりて七時ころ帰宅。□□□□□□□□話にしようかと云ふことになる。陽子に□□□を送る。

11日

昨夜、アダウンをのんで熟睡、□□□□る。小津君は今朝桜井君と□□さんを訪ねるとのこと。自分は「虹を掴む男」の市民座試写、□□さん玲子と□の三人でゆく。

12日

十一時大船へ行き、小津君と共に□□へ行く。桜井、佐藤君同車、□□本店蒲田会、□□□□あまりにて大盛会。帰りバスにて城戸さんを送り新橋にてわかれ、吉川女史□□さんも共に築地に行き終電。

13日 (2.8)なり

二日酔□□、玲子会社に行き十一月分③ (2.8)受取ってくる「□夫婦」「いやがらせの□□」その他を読む一日元気なし。

14日

朝バスなく歩いて日大出講。後日大船に寄り、契約のこと斉藤、□□、桜井、津路、鈴木の六人で相談。六時帰宅。沢村君の□トラちゃん同道。市民座「四□□」

の試写

15日 ㊿ 筈

□上京作協理事会、馬場君と同道新橋でわかれ帰宅。夜、原節子、沢村、玲子、トラちゃん同道、市民座「嵐ヶ丘」試写。今日玲子□に行き小切手㊿□を預って来てくれる

16日

霜あり、カンナの□一朝にして禍□にかわる 十二時出発バス道路□□のため不通、駅まで徒歩、玲子と田園調布に陽子を訪ね、□会四時出発。渋谷より□□後、銀座「□□」にて食事。銀ブラをして十時帰宅

17日

沢村君来訪、税のこと、情婦マヤのことなど雑談。報国寺に虫干を見に行く。□□□、雪□、□□、□□近くのものなどあれども、あまり感心せず。散歩して帰る。夜、□□天ぷらうまし。八時半就床

18日

玲子、百合子と約しても□□□文学座「道遠からん」を見に上京。自分□□君と出社、バスにて大船へ行く途中、トラックと接触、会社小坪君上京、雨になる。バスで大船まで来て、リntaxで帰る。玲子、ユリ子トシ夫と共に帰宅

19日

玲子と□、三越に陽子の時計などを求め、上野へ行き博物館に南画展を見、松坂屋のゲテモノ展など見て帰る。三越の銘菓展でウイロー、ノシウメなどを求めて帰る

20日

朝、玲子と扇ガ谷安藤家を訪ね□□□□の玲子の帯を求め、自分の□□上下など□み、□□□（午後）への紹介を頼み、玲子とわかれて出社、月森氏送別の茶会。帰りに沢村伏見両君と市民座「ジャンダーク」を見る

21日

朝、□さんアンバー来て、洋服（スポテックス）を頼み20000渡し、キレ地も求める。玲子□□□の帯を求む。出社小津君と大磯に高田を訪問（菅原上京のためのところ、既に辞去後）九時すぎ辞去、茅ヶ崎に行く、雨。

22日

茅ヶ崎館斉藤、□□、□□、鈴木、中山、□□、長セ君以下三人晝頃上京、午後セ、パ野球を聞く。3-2毎日勝 夕刻、中村□□君来る。□□□□熱海にてすぐストーリーの相談 進まず、十二時まで雑談

23日

□□荒田両君「愛と死と波と」にて苦吟、毎日松竹□□□、5-1松竹、三人脱稿、山本武一君長男□石クンをつれて来館、小津君と□□散歩に出る。山本君辞去、玲子より電信、陽子を訪ねた由。夜、雨、ストーリー相談進展せず

24日

著作権審議会のため上京、小津君同様、自分文部省出席。五時になる。築地森家へ行き薬師寺□長好胤さん□談、箱根へ行く由、カブキの脚本にて大へん□□てる。

25日

昨夜尿意多し。昨日ゼネラルエレクトリックのラヂオを持って帰り、今日西ノ宮よりのパ・セ野球を聞く。6-7で□□勝つ。逆転なり。夜、鎌倉へ電話、時計持ってくる 参考の本など頼む。

26日

十時起床、岩沢□□君来る。玲子、キモノ、□□□を持って来る。玲子を送って行き、帰宿山崎□□(アキラ)氏来る。山本武一氏来る。山崎氏にサクラ、オビなど□□□□氏泊る。ストーリー方向きまる。假題「麦秋」

27日

山崎氏帰る 自分二時五分に出勤、□村、木下、小出氏と「善魔」検討。木下君原作再読検討のことに□□□会計に□□頼み、五時茅ヶ崎に帰る。益子女史、高田好胤さんと来てゐる。食後□□、野球、コースにて毎日□□。

28日

会社より電話、月森氏明朝来訪の筈のところ、京都行多忙のため取消。野球8-7にて毎日の勝になる。ストーリー、なかよくよくなりさうなり。明朝早くから一仕事するため、九時すぎ就床

29日

朝寒さ酷しく、そのため一同十一時すぎ起床。中村□郎君、来訪の□□□と共に雨中を帰京。ユデアヅキをつくる。夜、トリのスキヤキ。人物の配置だけ大体きめる。夜、□晴れて月□し。

30日 ④□

朝、就床中に西田君来る。西田君帰り、佐々木といふ武一氏の助手氏来る。佐々木氏帰り、益子女史来る。レモンエードを作る。益子女史帰り、武一氏来る。今日寒さきびし。武一氏帰り、中村君来る。斉藤君のところへ□□□□る。

12月

1日

雨激し。鎌倉へ電話し明日自分出社のため、玲子明後日来るやういふ。雨中、□□税務係の宴会の由にて大勢客あり。ストーリー、大体の方向のみでなかくまとまらず。

2日

朝中村君□□、自分一時五分で出社、□□君□□、木下君と□□、「善魔」□□□を□□にすること、会社の□□の内、原作と□れてやること、□□氏よりも話あり。一應木下君に□かさせることを承知する。池忠君と同車、帰着、長セ君の餅、自分ケーキなど持帰る。留守中、□□、笠君来訪、夜、鎌倉に電話、エリマキを頼む。

3日

十一時半起床。一時すぎ玲子、山内、□□を持って□□□くる。□□□□□□□□入□せる由、玲子、モチ、ウイスキーなど□□。「私は誰でせう」を聞いて帰る。夜、向ふ側の部屋に男女の客あり。風邪気味になる。

4日

朝武一氏の助手佐々木君、バンさんと来て、永井龍男の「朝霧」（玲子が先日持参のもの）を読む。夕刻散歩。入浴、一鎌倉風呂場改築のこと、玲子、昨日の話、今朝も電話あり。

5日

朝、佐々木君再び□□に来て泊ることになる。荒田齊藤君追ひ込みなり。夕刻、散歩。今日だけは全然、ストーリー話題にさへならず。もう熟して来ころなり。

6日

玲子より電話、文部省芸術祭□□会今日一時よりの由。勿論出席不能。「帰郷」を脱稿す。福原さん来訪。セトモノ□□□□、小津君筆置を求む。駅まで送り、小津君と□□、散歩して帰る。マタタビ□□□□□□君出社⑮まで頼む。夜、□□母子、ノリちゃん来る。

7日

晝、荒田君小津君自分、海浜を散歩、遠く不如帰□□□を見、近くへ行つて幻滅す。夜、ラストの方、一家で写真を撮る場面を考へる。それで漸く「形」に就いての考へのキッカケが生まれやうなり。佐々木君再び出る。

8日

朝、杉さん□□ひを持ってくる。4000□□ 良輔荒田両君来て追ひこみ、荒田君どうやら脱稿の模様、佐々木君出来、□□。良輔君「自由学校」打合せのための上京をやめる。ラストの方、相談。十一時すぎ長瀬君来る。どうしたのか眠られず、街に出、雨にふられて、□□□で帰る。

9日

昨夜四時すぎまで眠られず。午後、佐々木君、長瀬君帰る。月森君来訪、契約をきめる。齊藤君、月森氏と共に□□、午後散歩、夜、ラストの方の相談□□す。□、□□対抗野球7-6□□をきく。齊藤君おそく帰る。

10日

齊藤、中村、□□(朝□□) □□諸君上京、齊藤□□新築引越し打合せのためなり。益子女史来る。夕食後益子女史を送って□□□まで散歩する

11日

天気よく暖かし。猫ノラ、ゴロー、シマタロー、□□を□□

12日

朝玲子より電話山内の父昨夜二時ころ死去の由。小津君と出発、自分藤沢より玉川

学園に行く。円満□□□。酒を買ひにケイ子が行き、山を越えて迎ひに行く。十二時□□。

13日

一時ころ家を出て茅ヶ崎へ行く。会社に寄り金を頼む。小津君の昨晚帰宿の由

14日

茅ヶ崎□□□に二十数日に及ぶもストーリー進展せず。

15日

午後、荒田君と熱海観光□、作協総会に出向く。会社十名、来客十名、兵藤丈夫、中井正一氏等と初対面、十四□円の□□。

16日

午後熱海より箱根清光園へ移る。途中熱海にてソバを食ひしところ、妙にもたれる。清光園脚本部忘年会、伏見飯田氏歓迎会、武井君送別会、飯田君□□の形。

17日

朝食後三時まで□□、権八ずしに荒田沢村□□君とゆき、大原女史来る。清島君吉池に行き泊る。荒田君茅ヶ崎にて下車、自分沢村君と共に□□、一ちゃん来てみる。

18日

朝、月ヶ瀬より電話あり、出社小津君と会ひ、佐藤氏に金を頼み、五時より木下君の「カルメン故郷に帰る」白黒の試写を見る。「善魔」打合せ。十時すぎ茅ヶ崎に来る。

19日

茅ヶ崎滞在、一ヶ月、夕刻荒田君と三人で町より海岸の方を散歩。

20日

午後、大原さん□□□の用で来る。帰ると云ひながら泊ってゆく。

21日

□□来る。「男の死□」の□□□をなんとなく□□□□る。大原さん晝頃帰る□□さん同□。

22日

小津君名古屋より兄さんの娘さんたち□□の由にて十二時上京、午後高村氏来訪、
斎藤君□□□□にて仕事捗らず、夜食の時一二三□る、小津君一時すぎ帰宿

23日

一日ぶらくする。子供行方不明になる件□□る。

24日

朝益子女史来るモチあり雑煮□□、夜、笠さん来てエリマキをもらふ。好胤さん松
下さんお多福さん来る。クリスマスイヴの故をもって小宴、□□さん帰りて□□
不在（玲子、陽子のところへプレゼントをみんなへ持って行った由）

25日

荒田君上京、□郎君来る。夜、本格にかゝらうと相談。今までのところを兎に角、
書き止めることにする。九時から初^{ママ}め一時ころまでやる。

深夜山本青枕君来れる。□□も知らず□□になって知る。

26日

朝鎌倉より電話。辻田さんの家のこと、熱海の宮本氏の別荘のこと、金のこと等連
絡あり。□□□□の諸君は月末近くまで滞在か。

27日

一旦茅ヶ崎を引上げる。風呂まだ出来ず職人□□□□、左官、□□など来てゐる。

28日

出社。会計要領を得ず。小津□□□□会月ヶ瀬にて佐□会計氏などと呑み、帰途、
坂本君と十六ずしによる

29日

出社、佐藤君と談判、小切手⑭□□10日□□、受取る。□は善魔の残り、小津君マ
ス子ユタカ君などと「わが谷は緑なりき」に行く。自分は帰宅

30日

朝、玲子と千代は銀座へ行く。午前中の由にてほっとする。

31日

お正月の買物に出る。南天その他の花を買ひ、シメナワを買ふつものところ、な

かくなく、小町通りのオモチャで買ふ
風呂大体完成、入浴。

〔昭和26年〕

【註：昭和26年の手帳には印刷された「日付け」がなく、書かれている日付けは
全て野田による手書きである。】

1月

元日

晴天。旧臘廿日小雨、三ヶ日も雨といふ豫報なりしも好天気なり。夜坂本正記君夫
妻、トラちゃん、□藤健三さん来てマージャンを囲み、十二時すぎる

(25年12月30日⑩麦④□受取る)

二日、脚本部の人たちの例年の吉例集まり、集まるもの二十二人 その最中、池田
一夫、平山清郎君来る。小倉遊亀さん青木邸に来て、招かれ、佛函、滋久の函など
頼む。今年は泊る人なく九時すぎ散会。

三日、美枝子来る。浴室大晦日出来し、その風呂入れてやる。

四日、道夫来る。午後、玲子、美枝子同道、田園調布サンモールに陽子を訪ね、
帰り、目黒の小林に寄り、馳走になり、帰り円タクにて東京駅に出る。520とられ
る。美枝子とわかれ、帰る。

五日 道夫君帰る 平山君来て「財政」の原稿を頼まれたるも断はる。小津君より
電報あり、明日駒込駅にて会ふ筈。

六日、十時半バスにおくれ、ハイヤを頼んで出る。駒込駅にて小津君と会ひ、染井
能楽堂に「草子洗小町」（華雪）「春日龍神」（万三郎）を見、小桜ママ、デコ、
上原と会ひ、上原の車で牡丹園へ行き、事ム□により、ジョージといふ人の車で横

浜まで来て別れ、マンジュウ、シューマイを求め、帰る。

七日、百合子来る。すしをとる。小津君昨夜は茅ヶ崎館に帰れず電話連絡あり。下痢にて一旦茅ヶ崎館へ帰りしも就寝中のため江間家へ泊りし由。

お尻におできが出来、四日に一ちゃんにペニシリンを注射してもらったが、そのまゝ大してよくなりず。

八日、出社。金例月分、ほか⑤頼む。熱海の家（宮本別荘）高村氏乗り気なり。山ノ上君のことも一應OKらしい。五時すぎの電車で茅ヶ崎館に来る。小津君ひとりだけにて、閑散。小津君数日来的下痢の由。

良輔君は今日あたり箱根より新居に帰った様子。

九日、午前四時半地震あり。晝頃浜田君来訪カレーをもらふ。浜田氏を送つて途中、しるこ屋「小□」に寄つたところ、小桜、高杉等々、体操の連中がゐる。帰館、□□地震は関東北部ヨコハマ強震の由。

十日

朝鎌倉に電話し、宮本氏の熱海の家のこと、山ノ上氏のこと知らせる。一ちゃん来鎌の由にて招く。電話より二時間半ほどおくれて来る。豚のスキヤキで一ちゃん大いに語る。□□□からもいろいろミソを書いてくる。9時すぎの列車で帰る。あといろいろミソを語り合ふ。

十一日 このごろの起床は大体十時前後。食事を終るのが十二時前後になり、今日は食事中に山本武一君来る。四月クランクインの希望。夜、小桜葉子、高峰秀子、江□のママ遊びに来る。テープレコーダーの一時間デコの電話に抱腹す。一時ころ帰る（益子女史夕方来訪。チーズ、ジンなど届く）

十二日 晝の宴会ある由にて、起きてすぐ入浴。小津君のところへ、監督協会、西

日本新聞など来客あり、大原君より電話。例月分が出た由、美術部梅田君の弟が届けてくれる。お尻のおでき大きくなり近くやぶけさうなり。今日は夜まで腹工合よろしからず、しかし夜に入って仕事の話 やゝはづむ。

13日、朝、白味噌のおつけうまし。大原君より電話で昨日の金のことを確かめてくる。宴会あり、昨日も今日も風呂早し、入浴後、仮睡、薄暮 駅まで散歩し、帰館すると山本青枕氏 お多福来てゐる。勉強するつものところ、駄目になる。おでき大きくなりて稍痛む。「街角の店」と「お茶漬」を一緒にする話などする。

十四日 玲子より電話、日大十六日のこと 同日協会にて□村会の打合せ、税務対策案ある由知らせてくる 隣室に宴会ありて騒がし。夕刻入浴。おできつづれる。ストーリー、原の生活に就いて考へるだけになり、それが□□□コンストラクションにかゝれると思はれる。良輔君は在京の□□、サザエさんを読む

十五日 九時四十五分起床、食事がすんで十一時半なり。「東京の合唱」と「兄とその妹」のコンストを作る。鎌倉より電話ユリ子が来た由、おできのこと心配してゐる。バンソーコーを買ってもらって手当する。隣室に今日も宴会あり。桜井氏より電話、明日兎井氏の知人□□□店の由。池袋百貨店にてテリフリ折だたみの傘を求む

十六日 八時起床、9時57分上京、日大出講、三時ヴェルデにて桜井君とあひ、孔□□オリンピックに行く。小津君10時21分に上京、山本武一、兎井、津田君と席上にあり、三宅邦子女史の夫君堀合氏など同座、八時ころ築地に行き、そこへまた兎井氏などが来る。入浴一泊。

十七日、晝頃森さん同道。サンに行き、東京駅前にて森さんとわかれ茅ヶ崎へ帰る。玲子と駅で同道帰宿。食後、玲子を駅まで送り、桜井君と会ひ、一緒に歩いて帰る。月明、静温 良夜なり。帰宿、ストーリー、□の件大いに進む。やつぱり□

□の三分間なり。(玲子に15渡す)

十八日 益子女史午後来訪、追つて「小松」で汁粉をたべ、消ゴムなど買つて帰り入浴。食事中鎌倉より電話あり。青木さんのノンちゃん三月結婚の由にて仲人を頼まれたといふ。二十一日都合よくば結納を持つてゆくこと。「宗方姉妹」校正。

十九日、朝、床屋来る。三時半の汽車で平塚へ「帰郷」を見に行く 思つたほど感心せず、六時半帰宿志賀眞津子さんが来てゐる。十二時ころまで雑談。大通りまで送って行き、帰つて来て、ストーリー相談。相当に進む。二時をすぎる。(母屋にマラソンの学生たちあり、二時すぎまで麻雀をしてゐる)

二十日 □時雨模様なり「宗方」を訂正。夕方、協会の恒ちやん来る。「宗方」を渡す。社団法人裁可の由。□□費5000渡す。会社小出君須佐君より「善魔」をシナリオに掲載したき旨の電話あり。自分のもの二つ出てはどうかと答へる。鎌倉より電話あり。登君の結納、明日十時ころ出発の由。夕食後、海岸より上原邸前を通り、駅まで散歩。

二十一日、七時起床。八時五分發で(池忠氏と同車)鎌倉に帰り、青木□□、フヨ夫妻と自動車で□山にノンちゃんを誘ひ、□□場を見、長井の大久保氏(お寺)に行き結納式。馳走を受け、再び自動車で鎌倉に帰る。大久保□□、登君、トラちゃんを招く。

二十二日朝、月ヶ瀬より十一時すぎ小津君来店の旨電話ある。「善魔」を読む。十二時五十分大船に行く。「善魔」雑誌掲載の件、小出君に云ひ置く。⑤の内③受取る。小津君三時頃出社、月ヶ瀬にて山内静夫、榊君などと食事。8.36分におくれ□九時すぎ鎌倉市民座に「風の中の散歩」を見る。玲子トラちゃん同席。

二十三日、昨夜は自動車で帰り、雑煮を食ふ。今朝入浴。「女三人」を読み二時出

社、会計佐藤君と精算の話をし、土屋氏に所得税のことを頼み、浜田氏手製のスプタで食事。七時茅ヶ崎館帰着入浴。十時ころ小桜葉子とママ遊びに来る。デコも上原家へ来てゐる由。寒い中を小津君送って行く。

二十四日 昨夜の寒さに引代え温暖。久板黒澤の「白痴」を読む。よくわからず。それに反撥を感じたせいか、夜、相談、わりに進む。青年が子供を探す件にからんでその誠実さを現はすなど。就床、眠られずアドルム一錠。

二十五日 婚礼あり。大辻梧郎君来る。田舎（宇都宮在、□□）へ引込むとての無心なり。角力十二日目吉葉山強し。隣室に婚礼あり。午睡。夕食後、再び仮睡せしところ、二人とも熟睡。十二時になつて目ざめる。アドルムを吞んで眠る。

二十六日 今までの材料を□□配列してみることにし、それくゝに考案。その最中、笠君高田好胤さんと一緒に来訪。夕食トリのスキヤキ、ラヂオの角力を聞く。照国今日まで土つかず。笠、高田氏十時になつて辞去。高田氏は大船11.58にて明朝8時半奈良着の由

二十七日 読売文化部河上英一氏より速達、「□□旋風」に就いての原稿依頼あり、事情を述べて断る。桜井君来訪。角力をきく。照国強し。入浴。夕食。原研吉氏来る。歓談。鎌倉より電話。明日おけいさんの四十九日の由。原君十時すぎ帰る。（陽子胃が悪く二三日寝た由 二十八日静子より聞く）

二十八日 朝十時二十一分發にて上京、新橋にてソバを食ひ、百合子、一郎、静子と待合せ、バスにて豊島園□、仁寿院に山のおぢいさんの七七忌に行く。納骨。再びバスにて新橋に出、四人で銀ブラ、東興園に行きしも休業、大和園にて食事、新橋DDにて喫茶、小林夫婦にわかれ、静子と大船まで同車、十時半茅ヶ崎よりリntaxで帰宿。

二十九日、天気よくつづく。朝相談、午後、大□館へ「□の□」を見に行く。夜、相談、大和の老人上京の件、娘のクラス会カマクラ私宅にて□□の件等、ストーリー大方まとまつてくる。昨日留守中、山本武一君が来て、城戸さんが□□□□がるか、など云つてた由、云つてみたさうなり。

三十日、朝鎌倉より電話、今日文部省で「□□」^{ママ}の試写、二日亡永見君の葬儀ある旨知らせてくる。夜ストーリー、兄が青年に妹との縁談を申入れ、青年が断り、それがあとへ響くといふやうに思ひ付く。広間に東京の牧師さん達の宴会あり。

三十一日

朝、鎌倉より速達あり、永見の葬儀の件、知らせてくる。静子、仁寿院で気持の悪かったのはもう癒つた由。年齢的のものか。午後散歩、海岸にコンクリートの障地あり。夜、場面を順にならべてみる。どうやら方向がハッキリしてくる。

玲子昨日大原女史より電話あり②とりに会社に行きし由

二月一日 晴天、朝食中、ママさん来る。ナラツケ、カマボコなどもらふ。仮睡、よく眠られるもんだと我ながら思ふ。夜、カード式にして場面をならべ、稍本格的になる。つづきの悪いところ、二三ヶ所あり。就床、アドルム一錠をのみしも眠られず。尻のオデキ殆んど全癒せしも、まだ時々気になる。夜キヨちゃんの客の友だち、来る、会はず

二月二日 晴天、このところ随分長く続く。食後今日は本格的にカードで考へる。夜、鎌倉へ電話、アブラゲなど頼む。大井のオバさん一時から四時すぎまで来て静子ノビた由。

二月三日 九時起床食事、十時五十五分上京、染井能楽堂に□謡「鉢ノ木」万三郎「□□」野村万造「棒縛」□□□□「橋弁慶」を見、小桜葉子江間のママと銀座に出「こん藤」にて食事、散歩、帆かけずしをたべ、長門にて半ナマ菓子を求め、東

京駅より9.18□□帰□。東京の寒さ一入きびし

二月四日 暖かし。朝、大原女史より小津君に電話あり、ついでに今月分を頼む。鎌倉より電話。一ちゃん夫婦、玲子と一緒に来ることになり、四時頃来る。赤大名のドテラ、アブラゲなど持参。トリのスキヤキ。医者のこといろく聞く。百合子、玲子十時半辞去、一ちゃんと共に駅まで送り、一ちゃんは泊る。この日、節分、豆まき。

二月五日、温暖、一ちゃん感激。二時ころ辞去。仕事、山村と子供の喧嘩 並びに大和の老人の滞在の理由など適切なもの考へ浮かばず、はかばかしからず。夜、広間に郵便局の宴会あり、そのあぶれの配達夫の酔っぱらひ、部屋に来る。酔語愛すべきものあり。

二月六日 ママさんストーリーを持ってくる。□□様の松□といふのを見せられる。われくの仕事、既に元は出来てあるといふ話なり。映画世界社竹下記者、写真を撮りに来る。浜へ出て写す。サントリーを土産に持つてくる。夜、仕事、相談。□□もまだ吹切れず。

二月七日 昨夜玲子より松下茂君来訪の旨の電話あり。今朝同君来る。大谷俊夫の助監督といふ男が二万円の家を借りに来た由。詐欺に相違なき旨を云つて帰す。夕方、斉藤中村両君来る。「自由学校」まだ百枚くらゐの由。今夕は向ふの部屋も満員になる。今日曇天なりしも夜晴れ、晴天つづく

二月八日、朝床屋（おやじ）来る。斉藤君へ早速渋谷組の菱田助監督督促に来る。広間に宴会あり、農業会とか。夕食後、六道辻の近くの「すし□」へ小津君と行く。方角さだかならず、東海道へ出て大廻りして帰る。（昨日山崎□□のオビ来る）

二月九日 昨夜不在中鎌倉より電話ありし由にて今朝またかゝる。市民座「気まぐれ天使」のこと、断る。夕方、大原さん来る。例月分2.8持つて来てくれる。齊藤君の本の清書のためながら原稿まだ出来ず。明日を約して□□車で帰ってゆく。このところ、仕事、全然つかえて進まず、困る。久しぶりの雨。

二月十日、また晴れる。雨風暖かく全く春の気配。青枕君、来る。仮睡して、夕刻帰る。入れちがひに山本武君来る。夕食の時大原君来る。今日は三十枚ぐらゐの仕事ある由にて、□郎氏と一緒に徹夜してゐる。塚本君より到来の餅、雑煮殊の外うまし

二月十一日 朝 山口松三郎氏 □□君を訪ねてくる。新聞に大映「源氏物語」の天然色（アンスコカラー）の報あり、山口氏大原女史つづいて帰る、風呂早くわく。大原氏に金を頼む。夕刻、大船に行き六時「善魔」試写、木下君力作なり。終つて月ヶ瀬にて小津木下両氏その他スタッフの人々と呑み、終列車で帰る。

二月十二日 朝、益子女史来る。ママさくら餅持参、つづいて高村渋谷両氏齊藤君のところへ来る。五時茅ヶ崎劇場に「また逢ふ日まで」を見に行く。カンヅメを買って帰る。昨日玲子、ハンテン、ドテラ、山内くんより到来の昆布など持ってきた由にて電話する。毎日コンクール作品リストを送った由なり。十一時就床。

二月十三日 このところ晴天つづきにて電力□□の恐れある由新聞煩さし。今日は□□相談。原□□の友達を設定するに就き、料理屋の娘にしてはなどと語り合ふ。これではどうにも話が進まず今一段の勉強考案を要す。さすがにこのごろ寝つき悪し。

二月十四日 朝から雪、風を交へて吹雪となる。大原女史朝来て良輔氏の清書、雪の中を四時ころ帰る。ストーリーの相談漸く進み始め、良輔君にも話し、気持として、形次第に整ふ。夜鎌倉より電話、「黒水仙」のこと。つづいて又電話、大船火

事の由トラちやんの話なりと知らせてくる。月ヶ瀬に聞き合せるも大したことなし。停電

二月十五日 国鉄私鉄、雪のため午前中動かぬ由。新聞も来ず。晝ごろから天気になる。このごろ寝つきわるく、今日も三時ころ起きて卯酒をのむ。それとアドルムのおかげでやっと眠る

二月十六日 朝曇。雪ちらくと降る。午後雪やむ。相談。夕刻より月ヶ瀬に行き、益子、豊、笠君などで鎌倉市民座に「黒水仙」を見る。面白くなし。小津君たち、スレく到大船へ帰る。自分、玲子とハイヤで帰宅。二時ころまで雑談。

二月十七日 平山夫人来る。一日千円の仕事にありついた由。一時のバスで玲子と出る。沢村君同道。一時四十一分発にて茅ヶ崎へ行く。土屋さん来てゐる。全□1485000、税110000ぐらゐの由、小津君夕方帰館。山本武一氏来訪。トンカツを揚げて食ふ。税のこと土屋氏に全部たのむ。大原さんも来て、徹夜。

二月十八日 大原さん早朝帰る。出来てゐるところから、こまかく考へやうといふことになる。夕刻陶哉の北川君来る。小津君より茶碗を贈□る。北川君帰京。十一時より二時まで杉村宅のシバイをこまかく考へて、書く。卯酒をのんで寝る。

二月十九日、起床十二時になり、食事終つて三時をすぎる。カンヅメなど買ひに散歩に出、駅向ふまで行く。「世界の名画」を求む。夜、杉村宅につづく原の家、帰宅後、結婚に就いての肉親たちの不賛成の部分を書く。今夜も二時になる。□□君夕方、三笠のトンカツ持参。

二月廿日、(床屋来る)朝、小桜のママさん来る。先日のストーリーの話なり。晝すぎ玲子、月明のものを持ってくる。大へんよくない。税金のこと話しておく。夕刻帰る。山田松三郎、白井氏、□郎さんを訪ねて来る。帰ると大原さんケーキなど

持ってくる。仕事、家につづく会社の原と杉村の件、家に於ける老母と三宅の件などに進む。（会社、家、料理屋、鎌倉のコンスト出来る）

二月廿一日、斉藤君今日明日といふ□、督促に追はれてゐる。午後大原さん一度出社、協会の□□君「宗方」のシナリオを掲載遅延の弁解にくる。大原さん 夕方、カツ、メンチボールの材料、ケーキなど持ってくる。仕事、鎌倉の家の母と娘、原の□□の件を書く。二時まで。運動して就床、よく眠る。斉藤君も今夜一ぱいの予定。夜風温かし。

二月廿二日 斉藤君完成、井上バンさん取りに来る。□□君来る。モ□□の小シュークリームを持って来る。大原さん帰る。淡島と原の件すすむ。広間に西洋人を交えたキリスト教の牧師の会合あり。風温かく生ぬるし。新藤君より電話、「宗方」シナリオ掲載遅延の件諒解を求めらる。

二月廿三日 運動不足のため一昨夜より就床前に体操する。効果あり。斉藤君出社。仕事、□□の件二時間半頑張り、上げる。斉藤君夜帰宿、仕事 □□の場をあげ鎌倉の家へ原が帰ってくる件をあげる。今までで約六十枚か。

二月廿四日 斉藤君□郎君引上げ、益子女史カツレッツを持って来る。上原夫妻映画世界の人たちと来訪。また写真を撮る。入れ代りに高田好胤さん□下憲一氏と来訪カツレッツシチューなどで会食。9時58分に小津君と送つて行き、うどんを食って帰る。今日は仕事せず。

二月廿五日 朝から雨。ひるから仕事にかゝる。海岸 原と三宅のくだり、なかくむづかし。玲子よりコンクールの通知□送。陽子にベッド（□□ブトン）を送りし由。日曜なれども雨のため訪客なし。夜も八時半ころより、十二時すぎまで仕事

二月廿六日 晴、仕事□□の場面、いろく苦作。夕方山本武一君来る。肉をとって

もらって、またトンカツなり。京都の千枚漬、スゲキ（月ヶ瀬より到来）うまし、山本君を送って散歩。帰宿仕事、海岸の原と三宅の部分全部上げる。

二月廿七日 税金のことと□□茂雄君のこと頼むため大船に行く。高村氏不在のため、山本君に手紙を託す。税金のこと土屋さんOK。月ヶ瀬にて佐□□君など同座、藤沢税務署の佐藤とか云ふ男と会ふ。十一時の汽車で帰る。もう少しで乗りこすところなり。（コンクールの返事出す）

二月廿八日 小雨、また寒くなる。二人とも昨夜の酒が残ってハッキリせず、トマトジュースなどのむ。夜、スキヤキの□□をカツにしてたべる。今日は一日駄目。「幸福な家族」などを読み、十一時就床。⑤麦玲子、会社へ預けに行きし由。

三月一日、風雨激し。仕事、ラストを後廻しにして前の方のコンストにかゝる。どうやら面白くまとまる見当つく。風雨二時ころやみ、温かし。夜の木々の緑、漸く静かにて春の気配濃し。夕方、散歩。豚を買って帰り、トンカツにする。雛餅あり、満腹す。夜十二時まで前半コンストラクション

三月二日 コンストラクション比較的順調、あと杉村母子と原の一家とのつながりだけの工夫なり。□雛とて五目ずしあり、スシを食ひに出て、江間のママさんの家により、海岸を歩いて帰る。サンデー毎日、週刊朝日などを読み耽り、十二時よりうっかり一時半になってしまう。

いろちゃんより電話ありし由。散歩から帰って聞く。

三月三日 昨夜おそかったため、起床十二時をすぎる。天気このところ曇りがち。コンストラクション杉村家へ興信所が調べにいったことを杉村が□□に来ることにしてはと考へる。夜、九時半より十二時半まで、大体のコンストラクション出来上る。漸く一貫したわけなり。百〇三日目なり。

三月四日、昨夜も映画□にて二時になり今朝十二時起床。ラヂオのス□□、歌自慢など聞く。今までのミソを各場面に割りあてる。全部で約三十四場面。但し□□の家出のあたりやラストのすきやきの会などの部分はもっとふえる筈、夜すしを食ひにゆき、帰ってから役名を考へる。一時になる

三月五日 昨夜二人とも寝つき悪く、今朝一時起床、監督協会の人来て、朝食二時半になる。夕食アンコーとカツレツ。九時半より仕事。ファーストシーンから書き出す。思ひのほか順調。四シーンに割って二時すぎまでに書き終る。

三月六日 朝床屋来る。午後原研吉君箱根ロケ（美しき暦）中止のため帰途立寄る。歓談。風強く雨をまじえる。その風雨の中を車で三人□□ずしに行き、駅からリntaxで帰る。鎌倉へ明日帰宅の電話する。一時半までに「会社」の場面あげる

三月七日 二時出発のところ乗りおくれ二時半発で小津君と監督協会総会に出席、自分鎌倉へ帰宅。静子と市民座に「□街」を見、すしを食って帰る。玲子、支那料理 なかくうまし。今朝茅ヶ崎で初めて鶯を聞く

三月八日 七時起床、食後仮睡、一時半出社、小津君と会ひ、出社 城戸さん東西企画会議にて乗船□□□□ 長セ、伏見君などと歓談。高村氏にも会ひ、月ヶ瀬にて食事。九時前に茅ヶ崎に帰り、入浴。十時就眠

三月九日 十時起床、十二時廿分ころから仕事、銀座の小料理屋の場面を五時までに終る。夜、斉藤君来る。雑談一時に及ぶ。「自由学校」「我が家は楽し」を読む。

三月十日 朝資産税調査のことで玲子来る、カキを持って来る。すぐ帰る。斉藤君上京、一時半から三時半まで「鎌倉の家」□□上京の件、なかく進まず。夜に入って調子が出「鎌倉の家」と「大佛境内」を上げる。一時半になる

三月十一日、昨夜は眠られず、しかも九時すぎ起床で、頭冴えず、桜井君来訪雑談、仕事出来ず。夜、すしを食ひに出、帰つて仕事。築地料亭の部分、あまり進まず。十二時になる。就床。築地八宝亭事件犯人自殺す。

三月十二日、曇、風強し。このごろ天気曇りがちなり。「築地の料亭」約半分。山本武一君来る。食事のあと、一緒に出て、また丸橋のすしを食ひに行く。帰つて小津君飯睡。その間に清書を始める。六枚。武一君毎月分2.8持つて来てくれる

三月十三日 十時起床、晴れて寒し。小津君のところに監協の人来る。仕事、築地の料亭のつづき。夜、また丸橋へすしを食ひに行き、帰つて、築地料亭、□の□□のくんだりあげる。隣室、箱根清光園の女中とまりに来る。

三月十四日 鎌倉へ電話するもよく聞えず、間宮家のシバイ帰りの場面進まず、夜、鎌倉に電話、明日ヨコハマ行きのこと通じる。電話よく聞えず。仕事、間宮家と病院を書き上げる。清書。十二時半になる

三月十五日、九時半起床、好天気。一時五分で出発、津崎君同車、原君も辻堂から同車、大船で玲子同車、益子君は差支あり、横浜日活にて「一ダースなら安くなる」を見、鎌倉に戻り、十六ずして食事、市民座に「女相続人」を見る。沢村君山内久君の弟妹も同席、九時半に電車で、また丸橋により帰宿。

三月十六日 仕事 間宮家康一帰宅の條を書く。晝と夜とで書きあげる。約十五枚なり。好天気 庭の色漸く緑を帯び、春めく。夜、鎌倉より電話、扇ヶ谷□□田家を斉藤といふ映画の人が買ひたいとのことに就いての間合せなり。

三月十七日、朝津路君、来る、永見君の奉加帳のことなり、一万円出すことを約す、みんな同類なり。早大生小津君のところへ来る。ママさんクサヤらくがん持参。四時ころ林文ちゃん来る。今年中に新東宝でやってほしいとの話。鶏肉持参。

十時半帰る。十一時就床、今日は「喫茶店」を半分書く

三月十八日、今日初め蠅を見る。蚊蠅など四五□□より現はる。すっかり春の気配なり。仕事「喫茶店」の場面あがる。夕方、沢村勉さん来宿、夕食を断はり、三人ですし元へ行く。帰路海岸に出て帰る。月清く、好い気持なり。十二時まで雑談、就床。

三月十九日、仕事、夕食前に「間宮家紀子帰宅」の部分をあげる。沢村君も勉強なり。夜、食後また丸橋へすしを食ひに三人でゆく。島木赤彦歌集を求めて帰り、仕事、一時まで「間宮家」たか来訪の場面をあげる。二時就床

三月廿日（百廿日目）朝、床屋来る。ママさんおハギ持参。小津君も自分も何か腹痛気味。仕事、清書だけ。夜、お多福おはぎを持って来る。とうく仕事にならず、九時頃まで沢村も同席、雑談。お多福、辞去。十一時頃就床。

三月廿一日（春分の日）小津君監督協会にて上京。自分も共に一時五分にて帰宅。家変りなし。清書。夕食、スプタ、スープ、なかくうまし。八時ころより青木家に行き、廿五日の結婚式のこと打合せ。十一時ころ帰宅。留守中、小津君月ヶ瀬帰着の電話ありし由、清書131枚を終る。

三月廿二日。服を合着に更へ、一時ころ玲子と一緒に出て、二時十四分大船発にて茅ヶ崎へ帰る。小津君、四時ころ帰宿。沢村君勉強。夜、食後また丸橋へすしを食ひに行く。今日は休養。

三月廿三日 春にしては寒い。「西脇家」を上げる。お彼岸とて宿からボタモチがくる。こっちも、アヅキを煮る。夕方、宴会ありとて、またお多福が顔を出す。夜、仕事。「間宮家」子供の汽車遊び、アヤの訪問「博物館」の老夫婦の二場面をあげ、二時半就床。今日アヅキを煮る。

三月廿四日 十一時起床、東京トーナメント。ロビンスーカープの放送を聞く。清書、今までで153枚。五時ころ出発、小津君は月ヶ瀬へ、自分□君結婚式のため帰宅。青木夫人来訪打合せ。小林家、ユリ子、□君、敏夫、来てゐる。キカンシャの話聞く。

三月廿五日 十時半青木家へ行く。八幡宮の神官二人、巫女二人にて挙式。十二時終り、写真を取り、静子□写真屋まで附添つてゆき、帰って□談、三時半ころ出発、兩人を大船へ見送る。帰って報告、帰宅。一ちゃん来る。鼻のデキモノ疼く。ペニシリン注射してもらふ。青木夫婦お礼に来る。

三月廿六日、朝またペニシリン注射、茅ヶ崎へ電話して、今日休養する。夕方、道夫君来る。藝術大学、□□□科に入学出来た由。一ちゃん、□□など通してくれる。ユリ子上京西町スクールに行つて夜帰る。一ちゃん帰京、ユリ子道夫邦夫敏夫とまる

三月廿七日。朝、昇君の新夫婦挨拶に来る。あと、秀夫君に頼み、ペニシリン打ってもらふ。支那料理の会でみんな集まる。十二時半出発、大船に行く。中山君の母堂一昨日逝去の由。3000秀実と送る。土屋氏に会はず、四時半茅ヶ崎に行く。小津君昨日帰宿、沢村君仕事1/3の由、夜、サムケあり、十時就床。

三月廿八日、夜半強雨あり、一日中雨。仕事、全然進まず。一日中読書す。鼻の腫物、漸くなおりかける。梅漸く二分咲きか。夜の草、また漸く緑なり。雨も春雨なり。夜、あとの方の運びなど考へる。十二時になる。

三月廿九日 沢村君奥さんの母堂の一周忌にて大阪行きのため、午後帰鎌、明日出発、□□日ころ再来の由。仕事「病院」と「間宮家ショートケーキの件」と二場面あげる。夜、すし元へ行く。晝間晴天なりしも夜曇。花□漸く繁□。大原君より電話、土□さん□□。

三月三十日、朝 飯田心美氏来訪、シナリオを評論にほしい由。仕事「間宮家」康一帰宅。子供レールとパンを錯覚する件をあげる。夜、すしを取って食ふ。斉藤、中村□□両君ハコネの帰りとして来泊。鎌倉より電話、税金のことなり。仕事一時までに康一と母、子供とのケンカあげる。

三月卅一日 晴天ながら肌寒し。仕事「間宮家」ケンカのアト紀子帰宅子供の家出の件、アトのコンストに疑問が生れ、考へる。□□氏入社、夕刻大庭、桜井、光畑、小出の諸君来る。それでも仕事約六七枚あがる。夜食にすしをとり、雑談三時に及ぶ。今日までに19シーン。

四月一日 山本武一君来る。仕事、「西脇の家」にかゝる。夜、小津、□□、□□の諸君とすし元へ行く。風あれども快よし。二階は大庭桜井光畑の諸君にてなかく勉強の様子。中央公論志賀さんの「試写会の朝」を読む。子供発見の西脇家を上げる。一時半になる。

四月二日 曇、「□□の家」秋田行の件、どうにかまとまる。夜、大庭、桜井、光畑、中村、斉藤の諸君と会食。津路、中山の両君来る。雨。大庭、桜井、光畑君等全員と会食する。十二時就床。昨日今日はユカタになる。

四月三日、雨、寒し。またドテラ、ハンテンなり。津路中山君帰る。会社に小切手のこと催促を頼む。仕事、会社の佐野、淡島の件をあげる。中村君も帰り、みんなで伊豆長岡に池忠組の本を届けるとのことなり。夜すし元よりすしを取る。仕事「喫茶店」「矢部家」の前半あげる。二階の連中遊びに来て四時になる

四月四日 眠られず、朝になる。清書八時半まで。それから眠り一人おくれて一時に起床。二階組、斉藤君帰る。また二人になる。「矢部の家」後半、「間宮家」「会社」の三場面をあげる

四月五日、仕事「間宮家」母のグチ、踏切、築地の田むら、「間宮家」海岸をあげる。夕方、ます子女史来る。またすし元へ行く。ます子女史、すし元の主人の□□車で帰る。自分たちは散歩、丸橋にてまたすしを食ひ、散髪して帰る。鎌倉から電話、作協著作権のこと。「会社」専ムとの別れを上げる

四月六日 いよいよ最後の二場面になる。考へまとまらず、夕刻沢村君来宿。またすしを取る。夜、仕事。遂ひに「間宮家」と「大和」を上げ、ここに「完成」す。時に十二時五分前。鎌倉へ電話、税額ママ、7650今日玲子受取りし由

四月七日、十二時起床、まづト通り出来たと思ふと何かゆったりした気持。朝酒。小津君仮睡、自分清書 玲子、明日来るやうに電話す。山本武一君来訪。築地より電話 おばちゃん明日来訪の由、山本君十時ころ辞去。

四月八日 七時半起床、清書297枚になる。十一時半終る。築地の連中、北川君、森さん タヌキ、町子来る。つづいて、玲子、山内久君□□の□□に□□。夕方、山本青枕、坂本君来る。9時40分にて、築地の連中と一緒に帰る。小津君 山本、坂本君に送られる。大へんな混雑なり。

四月九日、午後出社、土屋氏不在。津路君池忠組に出演の由、小津君四時ころ出社。月ヶ瀬にて呑む。大坂志郎、□橋□二などゐる。ペリーさん古賀氏来る。九時すぎ山本武一君と帰る。「□色」の話あり、十六ずしに寄り、土産を持って帰る。

四月十日、九時四十分上京、協会に行き、フェニックスにて□本博士と懇談、□□に行く。各社と協定のためながら□□。五時ころ帰宅、山内久君来る。会食、市民座「バンビ」の試写。小津君肥後さん十六ずしに□□合せ、トラちゃん同行。

四月十一日 雨模様なれど、静子と田園調布に陽子を訪ねる。雨になる。陽子益々元気よし。安心なり。修道長に大へん可愛がられてゐる。コスモスの苗を貰って辞

去、渋谷より地下鉄にて銀座に廻り、「日吉家」の□□洋食、ポタージュ、エビフライ、□キールなど2500なり、九時ころ帰る。山田の母来てゐる。

四月十二日 山田の母一泊。今朝帰る。アンバア□□に、□□□持参、玲子と出て、「樂しきわが家」を見に松竹□□館に行き、新□□でカマボコなど買って帰る。タケノコあり、うまし、スキヤキを食ふ、これもうまし。

四月十三日、静子と上京。博物館に宗直光琳展を見る。松本□雄君に会ふ。皇太子も□□、蓬莱屋にて夕食、帰鎌、十六ずしに寄る。九時ころ帰宅

四月十四日、出社、土屋氏に会ふ。5.6万の相違あり、手続きを頼む。大原君荒田君を誘ひ、鎌倉 □□屋にウナギを食ひ十六ずしに廻る。中西□□□来会、ポルドーに寄て、□本君来会、一時半ころ帰る。少々呑みすぎる。一ちゃん来てる。

四月十五日 二日酔ひの気味なり。一ちゃん□□をしてくれ沢村一家、平林一家、青木の母堂ノンちゃんの新妻など来会、沢村君は大仁へC I Eのロケの由、小澤君より電話。市民座へ「罨」を見に玲子、トラちゃん同□、「麦秋」のストーリー、**青枕□□□□が来訪。**

今日会社の組合の□□□なり。

四月十六日「麦秋」のストーリーを書く。山本武一君より電話で催促あり、玲子□□夕刻それを持って出社。□□□しに小津木下両君あり、黒澤氏来会、笠、□□など同座呑む。「レベッカ」の試写にて小津、笠、両氏と市民座へ行く。玲子トラちゃん同行。

四月十七日 十時、小津君と大船から同□上京、松竹クラブにて城戸さん高村氏と「麦秋」のため会談。帰途、森さんで休み、銀座に出、折柄上京中の清水君と会ふ奈良に家を買ふという話 七時ころ帰宅（玲子、□□~100000）「古き泉のほと

り」を読んでくれと高村氏よりの話。

四月十八日 陽子のトランクを買ふため玲子と上京。更科でソバを食ふ。大へんうまい。ワシントンで靴、三越で□□□□銀座でセーター、高嶋屋で佐藤君へ贈るワイシャツなど□□ □□□君に会って、□□□□に磯崎君を訪ね、六時半ころ帰宅 関口一郎君来訪、センキョの話なり。「古き泉」を読む

四月十九日に「古き泉」を二時までに読了、出社、小津君と会ひ、高村所長に会ふ。城戸さんより何かに発表しろとの□□あり、「古き泉」ストーリーを書くことになる。小津君今日野田に帰る。「麦秋」のコピー出来、帰宅して読む。訂正数ヶ所あり。□□□三氏引越しの挨拶に来る

四月廿日「麦秋」の訂正のため山本青枕氏坂本雨粧亭を招き、夜、食事を共にする。一升あける。二人ともおとなしく、十時半ころ辞去。

四月廿一日 渡□さん明日□□□□のため哲ちゃんに贈る電車や赤ん坊のおもちゃを買ひに玲子と町へ出る、おでんの材料を買って帰る。庭の隅を掘り、ケイトウを植える仕度をする

四月廿二日 トラちゃんに来てもらひ、庭にケイトウのタネを蒔く。静子祖母の五十回忌にて上京、その帰り、銀座に出て一ちゃんと会ひ、更科、上野に行って松山ずしなどに行きし由。

四月廿三日 出社、土屋氏の返事を聞くつもりのところ、不在。佐藤氏にあふ 税金借金にならず、未受取金だけで済んだ由。夕刻帰宅。友枝さんより明朝行きたいがと電話あり、明日は日大の日故、明後日を約す。なんのこことか家中で少々心配になる。□子に5000送る。

四月廿四日 玲子と上京、池袋東横デパートに行き、ビエタンの白いハンドバッグを求め、晝食。自分日大へ出講。二時半より五時までにて終り。上野へ戻り、風月堂にて玲子とあひ松坂シネマにて「わが谷は緑なりき」を見て帰る。玲子関西旅行の打合せ、なかく面白さうなり。

四月廿五日 玲子トランクを渡すため百合子と田園調布で会って陽子のところへ行く。友枝さん来訪。山□会の寄附のことでまづく安心。二人で駒姉を訪ね、伊□夫人に会ふ。夕刻帰宅。話題尽きず。道ちゃんも至極健康の由で大いに安心する

四月廿六日 朝友枝さんと十二所光觸寺まで散歩。帰って朝食。駒姉来訪。晝サンドイッチ、駒姉辞去、つづいて友枝さん三時ころ辞去、□□、「話の事典」を読む。

四月廿七日、午後出社、土屋氏今日も不在。山田君同道帰宅。ズーさんのストーリーの相談なり。夕食を共にする。トラちゃん、お見合ひの相手の写真を持ってくる。よささうな相手なり。小津君一昨日出□、今日は志賀さんへ行きし由 城戸さんより二ヶ所ほどセリフの注文あり。

四月廿八日、玲子と上京。四谷中央出版社にて「マリア、ゴレッチ□」を求め、お茶の水の山岳会に行き、木暮さんのリリーフの発表会に出る。道兄、友枝さん、美枝子と会ひ、銀座に出て、玲子のレインコートを求め、大和田にてうなぎを食ひ、東京駅まで同車して別れ、八時ころ帰宅。家で□□平、田辺、加藤氏来合。

四月廿九日 今日日は日曜日なり。朝雨、午後天気よし。一日中読書、「話の事典」「世界の名作」などに読み耽ける。幸徳秋水の小□など面白し。茅ヶ崎小津君へ電話。明日出社のこと打合せる。前の山新緑美し。庭のツツジ咲く。

四月三十日 縣知事選挙の日なり。出社。土屋氏また不在。佐藤君より二日附⑧着

受取って帰る。小津君と木下君とで月ヶ瀬にて呑む。木下君の上諏訪土産の酒なり。帰途青枕両事と十六ずしに寄る。保佐藤芳同道、二本松君も同席、プリンスにも寄り、二時ころ帰る。

五月一日 今年はメーデー取止め、朝、稍宿酔、十時半、上京 小津君戸塚より同車 上野に国展春陽展を見、蓬莱屋に寄り、すし屋に案内さる。玲子友の会に京都奈良行に就き小津君と東京駅まで歩き見送る。すし、菓子を小津君よりもらふ。十時半帰宅。

五月二日 朝銀行に行き⑧預ける。玲子今日は仁和寺泊り。夕方、一ちゃん百合子来て、支那料理を作る。磯崎、塩町両君来訪のためなり。磯崎君だけ来る。トラちゃんを呼ぶ。一時すぎまで歓談、哄笑、磯崎君泊る 一ちゃん「麦秋」推賞。

五月三日、玲子今日も仁和寺泊りの筈。大のシナリオ志願者来る。塩川君来る。午後、送って一ちゃんと共に行く。おもちゃを贈る。権五郎にてソバを食ひ、別れる。一ちゃん、八時半辞去。今日は一日風なく温かし、京都も好晴ならんと噂す。

五月四日、「古き泉のほitori」のストーリーを書くつもりのところ、志賀さんの「早春」などを読み出して駄目になる。青枕氏より電話あり、十二日本読みの由にてロケハンはその後になる模様なり。

ケイトウの芽ポツく出始める。

五月五日 玲子よりハガキ来る。七日に修学院桂離宮を見学する由にて一日延びるとのこと。結構なり。石段の上にサツキを植えるためトラちゃんに手伝ってもらふ。

夜、天ぷらをする。二人だと百三四十円でエビ、アナゴ、アジ、イカなどが揃ふ。

五月六日 朝鷺尾さん来訪、鶴兄作の短刀を贈らる。隣家後藤さんのあとに福島

□三といふ老夫婦が越してくる由挨拶あり、修繕が始まる。「古き泉」のストーリー、なかくうまく書けず。静子、また胃が悪くなったのではないかなど云ふ。玲子旅行に出て以来晴天つづき。ラジオ体操□□。

五月七日「古き泉のほitori」ストーリー半分書く。山内君コンストが出来たと相談に来る。小津君より電話あり、十六ずしにて会ふ。原さんのギャラ500にて会社が困ってるとのこと、沢村に来てもらって相談。明日でも会はふということになる。十二時ころ帰宅

五月八日、沢村君来訪、原さん本は気に入ってる由。明日会談することになり小津君に電話する。今日は支那料理の日にて□君の細君初めて来る。山のおばアちゃん山を飛び出した由、なかくハッキリしてると笑ふ。玲子、今朝帰宅、□せてゐる。大いに栄養をとる。

五月九日、朝日「シナリオ教室」の出講一応承諾の旨返事する。日大出講、金曜日2. 20 - 5.30も承知する。小津君十一時すぎ来訪。沢村君と三人で熊谷邸を訪れる。原節子女史の料理で晩十時すぎまで、途中熊谷氏上京帰車、時間を忘れて歓談。

五月十日、博物館の近藤市□郎氏、薬師寺の好胤さんに玲子の世話になった礼状を書く。玲子元気□□、朝一緒に銀行に行き、それから安□□にローケツを買ひに出かける。晩「古き泉のほitori」のストーリーを一気に書く。一時すぎる。

五月十一日 大船にて「少年期」ペンクラブの試写あり、玲子と出社、「古き泉」のストーリー大原さんに託す。試写後、里見先生に招かれ、小津君笠君、静夫君と鎌倉まで歩き「古都□」に行き、歓談、十一時半に及び、小津君だけ家に泊まることになり一緒に帰り、また歓談三時半になる。

五月十二日、朝食後、沢村君を招き歓談、三時ころ小津君と共に出社、明後月曜日高村氏と面会のこと山本武一君より申入れあり、配役中、山□、山村困難の模様。

五月十三日 玲子と上京、小松でガラス拭きコップ□ひ、松阪屋でツクダニ、コブ、伊東屋で万年筆、その向への店で黒のパラソルなど求め、更科でソバを食ひ、七時帰宅、トラちゃん裏の物置きをこわし、新にしてみてくれる。食事を共にする。小倉アンパン。一郎さんダリヤを植えてくれる。□□の半生好評

五月十四日 今日陽子の誕生日なり、玲子届け物と、安藤家のバラを折って田園調布に行く。自分床屋へ行き、後出社、高村氏今日は来ず、十七日ロケハンと撮影に出発の予定、大和へ出る俳優さんの衣裳合せ、十六ずしに寄って帰る。

城戸さん今日副社長に就任の由

五月十五日 静子と安藤家を訪問、裏の地面のこと、□□によっては全部借りることを頼み、十二時出社、小津君とセリフを一部追加。高村氏に会ふ。万事OK。「古き泉」はもう一度石□氏に問ひ合せる由、本代10,000申入れる。五時ころ帰宅。玲子、八時半ころ安藤家により帰ってくる。

五月十六日「家路」を市民座に見るべく玲子と出かけたところ、晝すぎより始まる由にて権太郎にソバを食ふ。若宮デパートの今村□で発展してゐる。静子、家の登記を頼むため安藤家を訪問。□□に全部依頼し5000預けし由 静子と「家路」を見て九時半ころ帰ってくる。

五月十七日 出社、切符を受取って帰る。激雨、八時半玲子に送られて出、十六ずしにて弁当を作らせ十時半東京着。十一時発にて奈良に向ふ、□川より浜田氏、大船より小津君、同行は山本、厚田、□下□□君の六人□中例によって眠られず。

五月十八日 八時五十三分奈良着、入江さん、好胤さんに迎えられ、薬師寺に行

き、晝食後出発図□□より飛鳥跡を歩き、香具山下を廻って□□に出て、また薬師寺により、西大寺より三條行にて帰る。井上氏来訪。

五月十九日 朝、小津、浜田両氏と三人で、八木より耳成に行き、耳成山麓に□□地を□める。帰途薬師寺に寄り、自動車にて高田氏同行、法華寺十一面観音を□に□□さんに会ひ、入江さんを訪ね、麦畑を見、八時半帰宿 井上氏来訪、佐分利君同席歓談。

五月二十日 朝井上氏来訪、今日は休養にて、一同で□□大丸に行き、スリッパなど求め、河原町を歩き、四條の先斗町の□の開陽亭にて、シチュー、コロッケなど食ふ、陽子と家へソバ餅を送る

五月二十一日 小津君厚田君□下君、現場下見に出かけ、自分浜田君山本君京都に残って古本屋を歩き、□□□その他を求め、鎌倉へ送る。□□□□浜田氏と開陽亭に行く。夕刻、高田好胤さん来訪、七時すぎ□□□一行到着、坂本氏田尻氏なども。

五月廿二日 四時十分起床五時出発バスにて耳成に向ふ。曇天のところ、八時ころより晴れ、撮影順調、今日が愈々第一日目なり。五カットで曇り、引上げる。夜、大久保さん、井上さん、八尋不二さん桜井君□田さん依田君など来訪、「□□□」といふバアに行きあとスタッフとトワンへ行く。

五月廿□日 撮影班七時出発。自分と□田さんと残り、自分だけ博物館に行く。□□の□宮さま、空也上人などおもしろし。山□の□□、実□の風□□雅□園など廻り、帰途、ツボサカに寄りコロッケを買って帰る。スタッフ夜帰京、月森氏三村君来る。開陽亭に行き、十一時半帰宿。

【註：二十四日の記述なし】

五月二十五日、九時廿七分発にて帰京。玲子大船まで出迎え、土産ソバボーロ、さばずし、飴、□□マンヂュウなど。留守中家の登記終りし由。

五月廿六日 朝上京、日大出講。帰りに西□デパートでゴカボを買って帰る

五月廿七日 第一回打合せにて出社、原節子三宅邦子高堂国典、佐野周二、笠智衆の諸君会合。少年と女の子を見る。

五月廿八日 デコの招待送別会にて、一旦出社。小津君と上京、プルニエ料理店の地階、城戸さんと出口で会ひ同席、九時半ころより築地森さんに行き、城戸さん大気焔、一時半ころになり、城戸さん帰り、自分泊り。50000会社より受取る

五月廿九日 八時半築地を出て帰る。小津君ロケハン。自分帰宅。アンバロと大来て、四畳半に□□す由。昨夜の酒、いくらか残り気味なる「巴里通信」「美術全集日本篇」などを読む

五月三十日 文部省著作権法審議会のため上京。作協に寄り、デコへの「巴里通信」を届けてもらふやうに頼む。著作権の会、会社側大へんな攻勢なり。監督協会より、山嘉次、千葉両氏出席。銀座へ出て帰る。「古き泉」城戸さん反対の由。玲子藤沢税務署に行く

五月三十一日 雨、十人会にて講演のため上京、朝日新聞七階の講堂「シナリオ第一課」の□なり。志村、北沢氏等に会ひ、斉藤恒ちゃん来て、一緒に茶をのみ、昨日の作協総会の報告を聞く。三越にて、ノリ、ツクダニ、□□の菓子など求めて帰る。

六月一日 まる一日読書、「美術全集」「大和古寺」「古寺巡礼」など読む。アンバーさん来訪、ヘキエキして四畳半にかくれる。

六月二日 出社、□□の□□する。小津君鎌倉ロケハン。西脇の役を宮口精二にしようか、といふ話

六月三日 日曜日、トラちゃん来て、土手の草刈りをしてくれる。登君も手伝って玄関の竹の植込みを□□□。岡本□□の息子、撮影所見学を頼みに来る。不愉快なり。トラちゃんと共に食事。天ぷらなり。

六月四日 (□□つけわすれ、七月二十二日まで) その間、十八日ころより「麦秋」開始

【注：以下、七月二十三日まで飛ぶが、この日付は赤字になっている】

七月二十三日 朝五時出発5.44にて上京、新宿より蓼科に向ふ、道兄八王子より同車、12.20分着12.50バスにて蓼科高原、山紫閣に泊る。山荘はプールよりすぐ上なり。雑木を切り、その他壁をぬりガラスを入れよばよくなる。

七月二十四日 朝六時に目がさめる。朝食後、陽子にハガキなど書き滝温泉山□温泉へ散歩。ソバを食ふ。帰って休養。四時ごろより親湯温泉へ散歩。湯川区□□出張所にて玲子へ名義変更を頼み、地代1395円拂ふ。

七月二十五日 十時ハイヤにて、奈良の兄妹といふ人を同車させ、上諏訪へ出る一時間廿分ぐらゝ 1300円なり。12時36分發新宿6.20着。中村屋にて食事 道兄とわかれて8.15東京發に間に合ひ、鎌倉に帰る。雨のためハイヤに乗る

七月廿六日 玲子、染物講習会にて上京、自分、藝術祭委員会のため上京、文部省に行く。帰り、しのだずしを買ひ、4.42にて帰る。玲子そのあとで帰宅。暑いこと限りなし。山は涼しいと思ふ。

七月廿七日 今日も暑い。入社、大原さんに第一期税申告のこと土屋氏へ頼んでもらふ。会計、□□13、余ある由佐藤氏から聞く。小津組ラッシュ、紀子結婚承諾後の間宮家まで、なかよくよし。□□（離婚結婚）を見て、帰宅、小津君大へん□□なり。アメちゃん、マッチをくれる

七月廿八日 朝床屋に行く。帰って仕事にかゝる。暑さ厳し。このところ雨ふらず。殊に、今日は土曜日ゆえ、夕方、水道の出わるし。

七月廿九日 朝、注文の帽子、裏打ちのクツをとり玲子と町へ出る。スダレを買って帰る。午後二時から三井氏、デフォルメの会へ出席、早見君子女史を久しぶりで見るモデル写真コンテで描く。タデシナの写真、みんな一應よく写ってる。

七月三十日 朝、山に霧あり。佳し。やがてまた暑くなる。ニュウスだと今日が最高温度の由、34°とか。日大の内田氏来訪。一ヶ月一度の講義でもいい由。山本青枕君よりデコのフランスの住所を電話で聞いてくる。

今日は一日清涼なり

七月三十一日 今日は一日中家で仕事をする。やっと抜けて第一夜を終る。夕刻山内君「暁に帰る」のシナリオをとりに来る。大船駅で会った由でトラちゃん同行。エンガワにスダレをつり、会食。十六日ころからタデシナへ行かうといふ話。

八月一日 朝入社、武一君よりピカデリーのプロの原稿と「柳□□□」の話あり、セット見学。杉村二本柳両氏のシバイなり、ラッシュ、原さんの「小母さんほんど」といふカットまで見る。まづ大丈夫のやうなり。永井氏来る。夕刻帰宅
⑧残額より七日附にて受取る。税組合に入る。

八月二日 朝から仕事、まづ順調なり。この二三日ほしい^ため^ならん。夜、沢村君ブラリと来訪、雑談十一時になる。小畑忠良氏がまだ五十六だと聞いて意外の感に

うたれる。

八月三日 朝、トラちゃん八幡さまの行燈の画を描いて来てくれる。鶯の梅と鯨の画なり。玲子彩色し、夕方届けに行き、ついでに「お遊さま」を見る。やゝ邪道の映画なり。仕事、玲子清書の分六十枚を終える。やゝ長すぎると思ふが、そのまゝ続ける。

八月四日 神谷□平氏（木暮家の知人神谷氏の息子）の武蔵野の秋といふ脚本を読み、そのあと仕事にかゝる。今日はタバコ850なり。また暑くなりさうなり。シナリオ81枚になる。八時から「ファビオラ」試写、ペンクラブ招待、つまらないこと驚くばかり。初めてグリンタクシーに乗って帰る。

八月五日 朝から仕事。平林さんとトラちゃん来る。浄明^{ママ}寺の盆踊りのことなり。午後信州伊那の伊藤□□といふ青年来る。弟子にしてくれと云ひ、家出して来た様子なり。説得して返す。おかげで仕事出来ず。

【註：浄妙寺は鎌倉の寺だが、付近の地名は浄明寺となる。ここに出る“トラちゃん”らを中心に半ば冗談で「浄明寺青年連盟」が結成されたが、その場合は「明」の字が使われている】

八月六日、蓼科ヘフトン、机、行李、抽出し箱など荷物を四つ出す。十四五日ころ着く由。北山村湯川止りの旨、朝早かったため玲子疲れた様子。夜、伊藤なか子に手紙を書き千円送っておくことにする。仕事、進み□□ども順調

八月七日、朝、ラヂオ体操を見に報国寺へ行く。テニスをしてゐる娘さんあり。佳し。また暑くなる。玲子、買物出てミドリゲンといふ汗止め薬を買ってくる。効果ある如し。仕事順調。夕方、トラちゃんとアメちゃん来る。八幡さまの行燈を見に行くためなり。九時半のバスで山内久君来る。西瓜をもらふ。ストーリー出来、提

出した由、十一時ころ帰る。

八月八日、今日も暑さうなり。陽子を訪ねる筈のところ明日にのぼす。玲子高島屋へ買物に上京。仕事、割りに順調ながら、暑さのためすぐ疲れる。夕方道夫君材木座の友達のところに来てる由で泊りに来る。トラちゃん来る。十五日から休暇をとってタデシナへ行かうかといふことになる

八月九日 八時出発、静子と共に陽子を訪ねる。自由ヶ丘でスリッパ、アレキサンドリアなどを求め、九品佛から行く。男の子三人、目高取りに行くのに会ひ、道をきく。陽子元気で暑い顔をしてゐない。靴が少しきつく、カ>トが高いと云ふ。11.45辞去、九品佛より自由ヶ丘に出て、ソバを食って帰る。盆踊り、浄妙寺で今日から始まる。

八月十日、今日今夏最高36° の由、仕事、プロローグをつけることにして書く。大原女史より電話あり。税金、いつもの貰ひ分より出してもら^まら^まことにする。夜、市民座「チャンピオン」試写。沢村君夫妻を誘ひ、同行。山内久君兄弟来る。アメリカ的なれど割りに佳し。「ゴールデンボーイ」を思い出す

八月十一日 朝神谷晃平氏来訪、二時間ぐらゐで辞去 仕事運ぶ。夕方、山内久君来る。「伊豆の□□師」の直しの由で、タデシナ行き十六日にのぼす。夕方より雨あり、雷雨なれども□少し。山内君、終バスで辞去。陽子の靴道具などもらふ。

八月十二日、早朝一郎さん裏のヒノキ（サクラ？）を切ってくれる。一時間もかゝらず。十時半出社、「麦秋」間宮家二階セットの初日、森女史来る。ラッシュを見る。セット暑いこと限りなし。45° ぐらゐと云ふ。五時帰宅、夜、浄明寺盆踊見物。今日ハナビ大会にて人寄り悪し。カーニバル今日までなり。夜□□寝苦し。

八月十三日 仕事、140枚になり、そこまでを読み直し、訂正する。夜盆踊りを見

に行く。節子さんトラちゃんに会ふ。町の人のお唄を聞きに誘はれる。がトラちゃんに代表してもらふ。

八月十四日 仕事、今日までのところを訂正、整理する。どうも前の方が少し長いと思ふが、あとで再考することにする。トラちゃん夜来る。例のお唄大へんおかしき由。玲子、支那料理、ユリ子来る □□まだ熱がとれない由

八月十五日 仕事、清書する170枚なり。夜市民座「舞姫」試写、兎井君に会ふ。山内、トラちゃんと一緒に帰り、二人泊る。明朝五時出発蓼科行きのためなり。玲子も元気よし。

八月十六日 四時起床、三人正五時に出てゆく。朝が早かったため、一日ぼんやりと晝寝などする。これだったら、会社へ行った方がよかったと思ふ

八月十七日 出社、小津君東京ロケ、濱村さん欠勤にてラッシュ見られず。その代り、三四ヶ月ぶりで良輔君にあふ。入歯をしたら、とてもいゝといふ話。夜市民座「邪魔者は殺せ」の試写、沢村夫妻と行き、近藤夫妻と共にココロなどのんで帰る

八月十八日、昨日出した玲子の速達が今日着く。二畳を板の間にし、米を一俵買ってあった由。四時上京、山水楼にて小國英雄君の「海賊船」の出版記念會あり、八時散會、一台のところバスに間に合はず、ハイヤで帰宅

八月十九日 晝すぎ驟雨あり、久しぶりなり。山からのみんなのハガキ来る。□尾さん久しぶりに來訪。用はなく雑談。伊東から初島へ行き、霧のみで船頭から一升楯のラシンバンを使って漂流したと云ふ話を聞く。仕事、暑くて進まず。夜小津君より電話あり。

八月廿日、昨日の小津君の電話にて写真の件相談のため早く出社、セット田村の二階、午前中で終る、ラッシュ間宮家の二階を見る。斉藤津路光畑君など出社、月ヶ瀬でタコ、精進あげでビールをのみ、六時すぎ帰宅 今夜は涼し。庭に椅子を出し、静子と涼む。(5.4)受取る

八月廿一日、朝驟雨あり、涼し。仕事警察の條うまく運ぶ。明日、山へ行くため、パンなどを買ひに出る。

八月廿二日 午前五時出発、新宿八時十分にて蓼科に向ふ、バスにもすわれ、二時ころ到着。トラちゃん迎ひに来てくれてゐる。みんな大へん気に入り、山内君勉強どころではなささうなり。トラちゃん山内君よく働き、木をすかし、食事も作り、玲子のんびりになる。大へん涼しい

八月廿三日 瀧温泉に行き、ハヤシライスを食ひ、山を歩いて帰る。夜、親湯へ行き、トラちゃん山内君プールで泳ぎ瀧に打たれ、あとトラちゃんと玲子ダンスをする。仕事、なんとなく出来さうにつき、少しやっけて行かうと思ふ。

八月廿四日 鎌倉へ電報し廿七日程帰らうと思ふ。庭の松を切り、すがくしくなる。朝、みんなにストーリーを話し相談する。夜、仲子女史と下の花柳女史来訪、ソバを食ひに行ったところ、休みにて、仲子女史□□先生などとビールをのむ

八月廿五日 木樵さんが来て、庭の木を整理し、霧ヶ峰、蓼科山などの展望甚だ佳くなる。玲子とトラちゃん瀧温泉へ大工をたのみに行き、自分と山内君のこつてコンストを考へる。夜も勉強、トラちゃん明日帰る予定（今日は土曜）

八月廿六日 昨夜三時になる。朝、トラちゃん山内君玲子の三人馬で牧場へ出かけ牛乳を買ってくる。木樵さん二人来て片付けてくれる。トラちゃん2.30のバスで上諏訪（4.16）で帰る。今日の炎天はかなり暑い。木樵さんに頼み、所々に柵を

作る。夜二日ぶりで入浴。驟雨あり。

八月二十七日 木樵は利一と云ひ今日も来てくれ下草を拂って、柵など作ってくれる。昨日より今日の方が暑く、トラちゃんさぞ暑がってゐるだろうと話す。仕事、稍々神経質になってゐる形で進まず。夕方、大夕立あり風景絶佳。長野縣は月曜日が床屋の公休の由で山へ来る。

八月二十八日 朝静子より「ミエコユクレイコ三〇ヒカエラナクテヨシ」と電報あり。美枝子二時すぎ着、みんなで八方台へ登る。高原気分、なかよくよし。トラちゃんより電報「クビアンゼンアツシトラトラ」。仕事何か気に入らず、思ふやうに筆進まず。今日も日向は暑い。

八月廿九日 朝涼し。目方、15貫800、玲子9貫700。下の別荘の花柳徳助女史にお茶に招かれる。山内君大へん女史をきらひなり。下の川散歩。風景よし。□山庵室のやうな家あり、山内君、三四場面を書いてくれる。徹夜なり。われくも十二時になる。

八月三十日 電報で明夜帰宅のことを打つ。入れちい^{ママ}に「マチビトオオシ レンラク□□ドカエレ」と電報来る。「シゴトアゲテアス カエル」と返電。瀧温泉へカレーライスを食ひに行く。山内君徹夜。自分も仕事。今夜、三時まで、山内君も一時半ごろまで 今日まで□□8.340.

八月卅一日 朝仕事を上げる。利一君裏の林の手入れをしてくれる。自分玲子、美枝子今日下山、山内君上諏訪まで送って来て一緒に駅前で卵丼を食ひ、4.46で茅野まで同車、下界は暑い。8.30新宿着、美枝子八王子で下車。10.10ごろ鎌倉着、トラちゃん迎ひに来てゐる。グリーンタクシーで帰り、サツマ汁で晩食する。

九月一日 今日土曜日で会社は休み。さすがに疲れてゐる。一日中「古き泉」の

直しにかゝる。山内君の書いた部分、なかくよく、少しセリフが□すぎる。月ヶ瀬に電話する。明日は丸ノ内口ケの由、仕事。二時までで完成。玲子そばから清書してくれる。

九月二日 東宝へ電話で連絡。玲子二時までで清書を終る。約二百七十五枚。3.30出社 高村氏西下中の由、大原さんに預ける。久しぶりで小津君と歓談、ラッシュ「田むら」面白し。あと濱村さんなどをまじへ月ヶ瀬で呑み、小津ちゃんマス子、子供におくられて帰る。

九月三日、アンバアちゃん、ユー子とタカシをつれて遊びに来る カレーパンを貰ふ。二時ころ、東宝元木、加藤両氏□□ 山嘉次さんのメロドラマの由、原作を望んでおく。5.45玲子と大船へ行く。七時より総ラッシュある。終って月ヶ瀬により鯛茶などたべ、沢村君同道、グリンタクシーで帰宅

九月四日 朝道夫邦夫来る。邦夫、元気よし。道夫午後帰り、邦夫当分滞留の予定、蓼科へ丹前類を送る。急に寒くなったと新聞に出てゐる故なり。夕方玲子邦夫と共に日通へ火鉢のこと頼み□□

九月五日 火鉢二個お膳火鉢台など蓼科へおく。新藤君の「愛妻物語」大映本社試写。なかくよし。終って日劇地下、□川夫人の店クーポールで祝ひの会あり、水木洋子女史に初めて会ふ。

九月六日—七日、記事なし。玲子、陽子のためにメガネのワクなど買ひに上京したり、一生懸命なり。山内君山は寂しくなるとて、しきりに手紙をよこす。馬もなくなり、プールの水も澄んだ由。トクスケにトンテキをご馳走になった由、仲子、神経痛とか。

九月八日、陽子の□衣式。クーを留守番にして八時十四分にて田園調布に行く。小林夫妻と道夫、美枝子と里子、山田の母、関口嬢など来てくれる。□名アルフォ

ンソ、ド、リグークになる。ゴモクスシが出る。陽子元気よし。自由ヶ丘で喫茶、夕方帰る。

九月九日 昨日の美枝子との約束で、友枝さん来る。美枝子に何かまた恋愛問題が出来たらしく、心配してゐる。会社へ行くつもりのところ、気が進まず、やめる。演劇映画アカデミーの原稿を書く

九月十日 友枝さん夕方帰る。一日中、すわって何やかやと話多し。玲子クーを連れて「パンドラ」の試写に市民座へ行く。このごろはミドリタクシーがあるので帰りも楽なり。映画は面白くな□□□由

九月十一日、玲子陽子のメガネのフチなど届けに行く。明日蓼科へ行くためなり。支那料理の日、玲子□って、一緒にやる。自分、邦夫と四畳半にこもる。玲子□□小池さんに洋裁で出張。そのあと仕度して、ユリ子とクーと一緒に目黒へ泊りに行く。

九月十二日、原稿シナリオ方法論を書く。アカデミーの原稿十七枚送る。玲子今朝山へ出発した筈。晝ごろから晴れてくる。ユリ子、フランス料理で来る。汽車は大へんすいてた由、フランス料理の先生は「巴里通信」を書いた人とか。ユリ子、七時辞去

九月十三日出社、玲子に貝ハシラ、チーズ、白玉、サラシアンなど送る。「古き泉」直し少しあり。あとメロドラマを頼まれ西條八十の「朝花夜花」のストーリーを参考に受取る。ひどいものなり。ラッシュ鯉のぼりと雲と茅ヶ崎を見る。夜「武蔵野夫人」市民座試写。毎月分(2.8)受取る

九月十四日、日大出講のため十一時半上京、二時二十分より授業、四時すぎに終る。雑談。七時すぎ帰宅。山ではクニオ馬に乗ってゐたらしく、そんなことでは駄

目だと云ってやる。このところ天気ハッキリせず小津君困ってゐるらしい。

九月十五日 シナリオ方法論の原稿を書く。40枚。山では邦夫馬に乗ってるらしく、困ったことなり。夜一ちゃんくる。中村屋のシオガマ□ーロンをもらふ。トラちゃんも今朝名古屋より帰る。いろいろをもらふ。一ちゃん一泊。

九月十六日 トラちゃんに手伝ってもらって一ちゃん物置の戸をつくる。青木氏夫妻来訪。一ちゃん家を建てたいとて、参考に鎌倉同業の友人を訪ねてゆく。夕方、トラちゃんを招き会食。一ちゃん七時すぎ辞去、天気今日もハッキリせず

九月十七日、玲子より小包み届く。お餅なり。早速ノリマキにしてたべる。小津君へも届けてくれと云って来る。明朝白井に届けてもらふことにする。「古き泉」訂正。澤村君夕刻来訪。シベリヤの林□の話など雑談。(コタツを掘り、屋根板を買ふこと電報す)

九月十八日、お餅かびる。そのため小津君に届けるのをやめる。「古き泉」改訂。三時半出発、四時上京、銀座二丁目越後屋ビル、グリルにて島津さん七回忌に出席、□本□□木下君など主催 城戸さん出席、例の如き怪気炎なり、桑原中井岩崎氏等に会ふ、中村君と同車、スシを買って十一時半帰宅

九月十九日、水曜日にてフランス料理、ユリ子出席、山へ毛布、パンを送る。尚昨日は菓子、コールドクリーム、マヨネーズ、砂糖剃刀の刃、エビオスなど送る。小津君より電話にて今夜八時より第一回スタッフのみの試写ある由、七時月ヶ瀬へ行く。試写よし、終電にて坂本君と大ずしにより、土産もって帰る。月明。

九月二十日、沢村君に今夜の試写を知らせ「古き泉」訂正、協会の鈴木君来て「方法論」の原稿を渡し、三時出社、「古き泉」を渡し、夕方、原節子さん□ひの事にて小津君と一度浄明寺へ戻る。七時試写、好評、原、□谷沢村君などと小津君中心

に歓談、同車して帰る。(⑧ノ内③キャッシュ①小切手、受取る。)

九月二十一日、朝、8.45にて上京。小津君おくれ、青枕君日東本社試写、城戸さん毘んでくれる。カット一ヶ所、東興園にて食事、小津君と自分、三越へ薬師寺水□展を見、好胤氏松田氏、オバちゃん、□□豊君などに会ひ、小津君カントク会熱海行と同車して帰る。林文三郎氏に笠君の息、豊君のこと頼む。

九月二十二日 今朝蓼科へ行くつもりのところ、やめる。笠君の細君、入学のことで来る。文ちゃんのこと話す。ストーリーをつくる「今半竹」を会社のことに直す。汽車満員の由朝トコヤに行く、雨。

九月二十三日 快晴、初めて百舌鳥を聞く。山本武一君に電話し、一ちゃん夫婦の試写招待を頼む。カマスの干物、□□など明日山に持って行くもの頼む。小津君今夜帰郷の由、夕方ユリ子に電報、二十五日早朝くるやう頼む

九月二十四日 四時起床五時家を出て、6.45にて新宿8.10に乗り、12.22茅野着、□の爺さんと同車二時ころプール平着。玲子邦夫山内君迎ひに来てゐる。伊藤ソバにて月見ソバでビールをのみ、家に行く。表の方大へん明るくなってゐる。表の方のユカ腐食、丸太まだ出来ず、夜、雨になる。邦夫なかくよし、山内君仕事。

九月二十五日 雨。小泉大工の弟子、コタツを切りに来る。ついでにタタミも切ってもらひ、火を入れる。夕方、高原ホテルに湯に入りに行き、□□にてシルコを食ふ。女の子がアケビを持ってゐる。□山を下り、諸住先生一人、伊藤ソバも明朝山をおりる由にて諏訪本社を案内したいと云ふ 山内君仕事。

九月二十六日 左官屋来る。穴漸くふさがる。会社より明日志賀広津里見の三氏試写を見に来られる由の電報あり、時間どうしても具合わるく、やめることにする。夕方、また高原ホテルにて入浴、シルコを食ひ、一久により、諸住先生とお茶をの

む。山内君幾分ホッとしたらしく仕事手につかず、豆腐屋の□□□悪し。

九月二十七日 玲らしいほどの快晴、左からノリクラ、オンタケ、カイコマ雪を頂いて美し。六時半ひとりで散歩に出る。すがくし。□を□って荷物を運び、一時のバスで一同山を下る。上諏訪までバス。湖畔を散歩し、本通りにてスシを食ふ、4.36出発、8.35新宿着。小林一家出迎へ、十時半カマクラ着グリーンタクシーで帰る。

九月二十八日 山内君と電話で連絡し十二時玲子同道出社、ペンクラブのための試写を見る。小津君昨夜アタミに行き、試写後、歓談、玲子山内と「ゴッホ」を見に行く。七時すぎ、十六ずしに寄って帰る。トラちゃん来る。玲子たち帰りおそく、トラちゃん会はずに辞去。山内君送って来て泊る。

九月二十九日 朝、隆ちゃんバサアの切符を持って来る。一時出発、自分玲子山内の三人でヨコスカ□□□バザアを見 三笠園に行き、猿島に渡り、帰りバスで逗子に出て、山内家に寄る。スシなど饗應され、8.56にて山内兄妹におくられて帰る。スシ、シューマを土産に持って帰る。

九月三十日 玲子五時半発上京、博物館友の会益子陶器見学のためなり。お墓参おばあちゃん来る。半日以上トロくする。今半竹を読む。玲子、十二時帰宅、強雨。浜田庄司氏作の花瓶を土産にもらってくる。おばあちゃん泊

十月一日 連日終眠おそきため、玲子十時まで眠る。武一君より電話、明日Q氏と対談のこと頼んでくる。お駒姉さん来訪、夕食を共にする。今日は天気よし。おばあちゃん今夜も泊る

十月二日 東宝加藤氏来訪ソロドラマのこと。高村氏より断られた由。尚、「女三人」を貸す。加藤氏は千石規子女史の夫君の由 おばあちゃん帰る。三時半出発上

京、宣伝部に行きスターホテルにて日刊スポーツ主催Q氏三宅氏と座談会、終ってQ氏三宅さんと三人ルパンへ行き、終電の一つ前で帰る。上森の大恋愛事件の話をきく。

十月三日 ソヴェト映画「伯林陥落」を見に玲子と上京。品川より電車で飯倉の郵便省四階に行く。二時開始二時間半、渋谷 池田、武一君などに会ひ、山内久さんもゐる。終って武一君と玲子と三人で銀映に行き、初日を覗き、東興園にて食事。終バスの一つおくれで帰る

十月四日、「サンセットブルーバール」のシナリオを読む、なかく面白し。山内久さんデコレーションケーキを持ってくる。「夜の来訪者」をやらうかとの案、渋谷君より出た由。夕食を共にし、トラちゃんを呼ぶ。おそくなつて山内君とまる。雨になる。

十月五日、十一時ごろ山内君と玲子は市民座（邪魔者は殺せ）自分は松竹（南風、特ダネ女史）に行く。三時半帰宅、沢村君来訪、歓談。玲子は小池さんへ洋裁教授に行く。玲子、エンダン相手が官吏の点気に入らぬ様あり。白水社より「チボ一家」寄贈の知らせあり。

十月六日 朝、沢村君を玲子と訪ね、家を見せてもらふ。エンダンのこと断っておく。玲子午後フランス料理。美枝子来訪、友枝さんが心配してるやうなこと些かもなし。小津君東京より電話にて九日大船へ来る旨云ってくる。「麦秋」入場者数減少か。美枝子一泊

十月七日 玲子美枝子とバスで逗子に行き山内君と誘つて海へ行く。明氏美里ちやんと海にゐる。同道して帰り、少憩、またバスで山内君同道 帰宅、夕食後、美枝子山内君帰る。ユーゼニーグランデを読む

十月八日 終日「ユーゼニーグランデ」を読む。ホンヤクモノはなかく面倒なり。夕方床屋へ行く。武一君より電話十一日松竹クラブ行きのこと。夜、小津君より電話。月ヶ瀬へ帰って来た由。

十月九日 今日支那料理の日。雨ユリ子来る。一時半出社、重役会の由にて高村氏来らず、清島君だけゐる。小津君に月ヶ瀬別宅で会ふ。今年年内に一應形をつけたいものと語り合ふ。七時帰宅、「賭はなされた」市民座試写なれどもやめる。

十月十日 晴、十一時玲子と一緒に上京。小津君大船より日東セントラルに「サンセット大通り」を見る。小川軒、コックドール、源ずしにより、銀映の様子をきく、森さんに寄る。帯を贈る。□□留守、東京駅まで歩き、同車して帰る。上森、斉藤□ちやん同車。

十月十一日 朝曇後晴。四時より松竹□にて城戸高村両氏と会ふ約束あり、小津君「朝の訪問」放送にて録音のため、四時すぎ一緒に上京。武一君同席、城戸さん大気焰にて十時すぎになる。東京より来車帰宅

十月十二日、出社、高村所長に会ひ、15先借りのことを頼み、会計に頼む。明日野球に行くことになる。十五日湯ヶ原へ行き大体のこときめることにする。

十月十三日 朝七時発、大船より小津笠両氏同車、丸ビルに寄り、後楽園に日本ワールドシリーズ南海巨人を見る。3-1にて巨人勝つ。浜田氏マス子女史、安田□の諸君と一緒に。東興園にて食事、小津君と二人、ピカデリーに「イヴの総て」を見、10.45で帰る。

十月十四日 雨、颱風ルース九州に暴れ、明日あたり東京に入るといふ予報あり、シナリオ「めし」「白昼の決闘」などを読む。方法論を書く。風雨、今のところ^{ママ}それほどでもなし。

十月十五日 朝方法論をまとめ、二時出社4.10にて小津、武一氏と湯ヶ原へ行く。月よし。次回作を相談のためなり、今日は相談ならず。

十月十六日 正午志賀先生来宿、二時より同道 安井曾太郎邸を訪ね、画室にていろく両氏の話聞く。五時すぎ辞去。夜散歩に出てポマ^{ママ}ート、シャボンなど求める。

十月十七日 朝食後志賀さん遊びに来られ一時半まで雑談。その後假睡。夕方散歩。陽子にあてキビモチを送る。夜食中また志賀さん来られ雑談。時計をまちがえて一時になる。

十月十八日 九時起床、晝すぎ志賀さん奥さん二番目のお嬢さん（寿々子さん）お孫さん来られ奥さんお嬢さんは四時のバスで帰られ、先生だけ六時すぎまで雑談。夜食後先生も一緒に駅まで散歩。三杉の画盆を求む。

十月十九日 今日帰ることにして、1.11出発のつもりのところ、志賀さん来られ雑談。三時四分発で帰る。志賀さんも三時のバスで帰られる由、夕刻帰宅、夜小津君より電話あり、明日日米野球に行くことになる。蓼科は二十二日に行く予定。昨夜山内馬場トラちゃん来りし由。

十月廿日 朝九時出発大船より小津君益子女史豊君同車、豊君指をドアにはさまれる。十一時後楽園日米野球、米軍打撃もよく、守備殊によし。一塁手フェイン拔群なり。ブライスのアクロバットも面白し。7-0、企画部清水君同道、東興園、ビーコンに寄り、築地森さんにより、十時半東京駅より帰る。万年筆を買ってくる

十月廿一日 雨、日米野球雨中对戦ラヂオで聞く 昨日は巨人、今日は毎日なり。11-0、保険屋来る。四時大船に行き木下君の「海の花火」を見る。□混乱してゐる。月ヶ瀬により、九時半帰宅、玲子、岩波の「□□□学院」創元社の「日本美

術」「新平家」の□三を買ってくる。面白し。

十月廿二日 朝無□、晝静子と共に九品佛より陽子のところへ行く。陽子元気よく、服なかく似合ふ。自由ヶ丘にてソバ、お菓子など食ひ、夕刻帰る。山内馬場君来る。明朝蓼科に行くのを半分断りに来た形、すゝめたら、行くことになり、泊る

十月二十三日 五時出発、新宿8.10発車中雨、12.30諏訪君バスで茅野、2.40のバスで蓼科に向ふ。雨どうにか小降り、紅葉既におそくやっぱり十日ころがいゝらしい。雨中山内馬場両君フトンを運び、コタツして眠る

十月二十四日 馬場君沖縄行にて電報あり、4.30のバスで帰り、5.40に乗る筈。山内君も友人の妹が北海道□来た旨ハガキ電報あり。明朝帰ることになる。山は思ひがけないところに家が見え道が見えるなど枯木立の風情なり。

十月二十五日 十時三十分のバスに乗る筈のところ、片付かず、山内君だけ先きに帰る。あとを片□1,000バスで玲子と諏訪へ行き、「湖」にてウナギを食ひ、4.36にて帰る。相当混雑する。十一月より汽車賃値上げのせいならんといふ。グリーンハイヤで十時半ころ帰着

十月二十六日 十一時半上京、二時すぎ日大へ行く。日大明日と明後日学園祭の由で授業なく、飾付などを見て帰る。通知を出したといふ話ながら、来ず。今日黒靴を注文する。4500の由、安くなったものと思ふ。

十月二十七日—九日 天気定まらず、読書ならびに午睡にすごす。林芙美子の「晚菊」などなかく面白い。シナリオ「命美し」「母化粧」「適令三人娘」などを読む。「命美はし」だけだと思ふ。

このごろ降雨（人工）の実験しきりながら、うまく行かぬやうなり。

十月廿日 方法論の草稿を訂正する。夜山内君小切手を持って来てくれる。十月十九日附なり。お□□テンプラうまし。トラちゃんも来る。未亡人と交渉なかく進んでゐるらしく、どうなつて行くか、少し気になる。

十月卅一日 今日朝から曇り。十一時半上京、快晴になる。文部省試写室にて「源氏物語」の試写あり、あまり感心せず、一番おかしいのは現代語のセリフなり。いなりずしを買って帰る。山内君来訪、傘を返しに来たのなり。「□□物語」を読む。なかく面白し、読了。⑤日附今日になつてゐるものを十一月廿日受取る。

十一月一日 晴。トラちゃん例の未亡人のこと父君に話した由、朝報告に来る。なかくむづかしい問題なり。□□から玲子と市民座へ「白晝の決闘」を見に行き、別れて出社。小津君も見たいと一緒に鎌倉まで歩き、途中、前田青邨邸を探したり、淨智寺へ寄ったりして暗くなり、小津君を誘って帰り食事、十一時ころ帰る。

十一月二日 金曜日ながら、日大を休む。林芙美子の「晩菊」など読む。なかく面白し。今朝から、胃の具合なんとなく宜しくなし。シナリオ菊島君の「鬼」（天□）をよむ、なかくよし。ハガキを出す。

十一月三日 文化の日、小津君との約束にて、九時出発、大船で同車して染井能楽堂に□□の「松風」万三郎の「烏帽子折」を見る。山下氏夫妻にあふ、北川君と会ふ。あと銀座に出て、ブルドッグ すし屋などに行き九時すぎ帰る

十一月四日 晝すぎ静子と同道、藤沢オデオンに「麦秋」を見に行く。珍らしく何も食べずに帰つてくる。「シエラ」といふ洋画と二本だて四時間なり。長すぎる。七時すぎに帰宅。

十一月五日 午後出社、山内君と入れちがいになる。木下君十日渡佛の由にて今日は監督会の送別会ある由、旅行十一日ころに出かけやうかといふことになる。沢村

君と駅前ビールをのんで帰る

十一月六日 今日静子クラス会にて珍しく出席、新宿中村屋の由にて九時半出かける。うちは支那料理、みんなと入れ代りに沢村君来訪、歓談 永井龍男の「□□」を読んでみると貸してくれる。静子、七時半ころ帰宅

十一月七日、朝から十人会の速記「シナリオ第一課」に手を入れる。なかく大へんなり。夜、イソから電話で泊まりに来るといふ。十時すぎ来る。高橋といふ青年と一緒に。泥酔してゐて迷惑千万なり。泊る

十一月八日 イソと高橋君、七時半帰る。白水社から「映画の世界史」送ってくる。ラヂオ、オールパシフィックと全米の野球、延長十一四二—二にて終る。大原さんより電話、武一君小津君大船にゐない由、色紙が出来た通知なり。

十一月九日 方法論「方言」の項を訂正□□□ 夜小津君より電話あり、明日の日米野球に誘はれる

十一月十日 朝九時出発大船より小津君□ちやん同車、上京、明治神宮外苑球場に「オールセントラル」と米軍の野球を見る。□□3—2に米軍勝つ。東興園にて食事。吉川□□館に渡佛の木下君を送り、森家、□ずしに行つて帰る。

十一月十一日 稍二日酔の気味なり。午後玲子と市民座にボブホープの「婿君□□□□」を見に行く。ヒゲに火をつけるギャグだけ面白し。夜ノンちゃん来訪、青木さん7000万ほど損害ありし由。

十一月十二日 玲子風邪気味。午後出社、小津君とあひ十四日ツバメで西下する予定にする。例月分28受取る

十一月十三日 午後玲子と「アンナカレニナ」を見に市民座へ行く。面白くなし。ヴィヴィアン・リーも「哀愁」ほどよくなし。靴下を買って帰る。夜益子女史より電話。切符なかく大へんの模様。深夜小津君からも電話あり。

十一月十四日 朝七時十四分にて上京、九時のツバメにて小津君と西下 名古屋より近鉄、中川乗換六時近く松阪着、小津君の旧宅愛宕町佐野家に泊る。井阪氏来訪、ウナギの馳走になり、散歩に出、昔の旧家のあたりを歩き、十時半帰宅、就眠。柱時計の音気になる。

十一月十五日 井阪氏来訪、佐野寛一氏同道、和田金にて牛肉を食ひ、松阪城址を見、四時すぎ電車にて宇治山田に到り、□の古市まで電車で行き、大安別館に泊る。井阪氏も同□大へん世話になる。井阪氏十一時すぎ辞去、気持よし。

十一月十六日、晝過ぎ古市より自動車にて内宮に行き、慶光院氏にあひ、二時ころハイヤにて鳥羽に行く。大岩氏を訪ね、戸田屋にて接待を受ける 鶴飼氏にあふ。そのあと電車にて穴川に行き、船で渡鹿野に渡り、□□荘に泊る。大岩氏井阪氏は宿

十一月十七日 朝食後、舟にて安乗に渡りバスにて波切（ナキリ）に至る。大乗崎の燈台など見、またバスにて御座に至り、舟にて濱島に渡り一文□に泊る。安宿なり

十一月十八日 朝8.40濱島出船 賢島より電車にて鳥羽へ。鳥羽よりハイヤにて宇治山田へ。それより近鉄にて八木を経て京都三時着。開陽亭にて食事、新藤君にあひ、松華楼に投宿、夜散歩、井上さん来訪

十一月十九日 井上さん九時ころ来訪、雑談 朝から牛肉を食ふ。午後、河原町寺町を散歩、笠さん来宿、溝口荒井良平氏来訪、好胤さん□奈良より来宿、食後散

歩、「きぬた」といふ喫茶店に寄る。(玲子□「わかれ雲」の□)

十一月二十日 朝十時二十五分京都駅(南口)発奈良に行く。一行小津、笠、井上、高田氏の五人、戒壇院に清水君の撮影を訪ね、橋本□□師に会ひ、三和銀行の車で九体寺に行き、道に迷ひ大柳□□円□寺を見、九体寺に行く 佐伯快□師に会ふ。夜、清水君の馳走にて江戸三の□□□、京都に帰り開陽亭に寄る。

十一月二十一日 十時出発、桂離宮を見る。同行、溝口、井上、荒井、□□□、小津、笠の諸兄、あと松尾神社に詣で嵐山より電車、撮影所に寄り、溝口邸にて接待を受ける。□木孝一氏同席、帰途寺町を散歩、□□を鎌倉と志賀さんに送る

十一月二十二日 溝口さんの□□にて修学院拝観 紅葉ことによし。詩仙堂により、帰途開陽亭にてビールをのむ。清水君仕事で来られず。夜は溝口井上、桜川、秋山氏伊藤大輔氏が集まり雑談。すし政に行き、また開陽亭に寄る。この日快晴、修学院まことに佳し。

十一月二十三日 朝井上さん来訪、1.07ハトにて帰京の途につく。高田好胤さん駅へ見送らる。松華楼の女将も送つてくる。途中、名古屋にてウイロウを求む。8時ころハマ着、鎌倉へ戻る 玲子駅まで来てみる。ハイヤで帰宅。雨になる。サバズシ大歓迎。

十一月廿四日 晝すぎ、玲子と□□□へ「ブンガワンソロ」を見に行く。ついでに「□□□」の一部を見る。つづいて松竹に行き「あわ□人妻」と「踊る紐育」を見、七時半帰宅

【註：「踊る紐育」は正しくは「踊る大紐育」】

十一月廿五日 十時すぎ玲子とヨコハマに行き□□館にてフォードの「黄色いりボ

ン」を見る。ウエインの老け役よし。つづいて□□座に五所君の「わかれ雲」を見る
七時半帰宅

十一月廿六日 朝床屋に行き、十時玲子と上京 新宿にて「風雪二十年」と「めし」を観る。「めし」なかくよし。帰途バスにて東京駅へ出で、6.43の電車で帰る。沢村君十一時ころ来訪、月ヶ瀬よりの□□を□□る。原さんまた浄明寺に出てゐる由

十一月廿七日 朝玲子と八幡様の美術館に「セザンヌ ルノアール展」を見に行き、買物などして帰る。伊セの方や溝口さんなどに礼状を書き四時半出発、大船五時過ぎの電車で茅ヶ崎へ向ふ、五時半茅ヶ崎館着。小津君一人。トリのスキヤキにて歓談、十二時安眠

十一月廿八日 小田原大火の由、コタツにて鳩舎を読む。夕刻、町へ散歩に出、下駄、薬、本など買って帰る。留守中、笠さん土屋さんなど来訪の由、アタミの帰りらしい。夜、ストーリーの方向などに就き語り合ふ。□□山の下あたりを背景にするか。右ワキノ下にオデキ出来て、稍痛し。

十一月廿九日 朝玲子より電話。フィルムライブラリー第一回試写「アスファルト」の由。「鳩舎」を読みつづける。小津君池田青彬の「わが人生観」を読む。夕刻、山本武一君来る。題名催促。作品の□□、凡そ見当がついてくる。このところ毎日晴天、殊に朝の縁側暖かし。

十一月卅日「鳩舎」読了。今日も亦暖かし。腋の腫物、破れる。夕刻笠さん来訪。服地を贈らる。酒ももらふ。親子□□論に花が咲く。駅まで送つて帰途、江□家に寄る。ムツヨさん縁談ある由にて、またいろく夫婦論などに花も咲かせ、十二時帰宿。雑談、二時ころまで。(大原さんより電話 部会の打合せ)

十二月一日 今日も快晴、暖かし。特記すべきことなし。人物を多く出さうなど語る。好胤さん明日来訪の旨、森さんより電話あり。夜、散歩、丸福に行きすしを食ふ。町内なんとなく歳暮の感じなり。福引など始まってゐる。

□□□、毎日新聞よりの通知鎌倉より廻送し来る

十二月二日 快晴、今日好胤さん来訪の筈のところ、築地より電話にて、四日来訪の旨知らせてくる。そのためか、なんとなく物足りず、仕事の話にならず。午後、桜井君来訪、哲雄ちゃん文楽や歌舞伎がすきで人形など上手に作る由、一緒に散歩に出て、グラウンドを見、南部家の傍を通過して帰る。満腹早寝。

十二月三日 今日も快晴、風なく温かし。今日で来泊七日目なり。このところまた仕事□話ふれず、晝広間で日向ぼっこをする。夜、煮魚を煮返し、わりにうまし。「りべらる」といふ雑誌を今になつて初めて読む。大原君より部会十日に決定の電話。ついで⑤頼んでおく。

十二月四日 好胤さん来訪の筈のところ、また伸びて五日になる旨電話あり、今日は朝より曇、寒冷、身に沁みる、午睡。昨夜少し心覚えを書きとめる。夜食後、パチンコをしに出かけ丸福にてすしを食ふ。うまくなし。就床後も寒さ身に沁みる

十二月五日、快晴、暖かし。広間に婚礼あり。午後、益子君笠さんと来訪、森さんより合鴨を届けるとの電話あり、益子君帰り、好胤さん来訪、築地より新ちやん合鴨を持つてくる。松下さん来訪、笠さん新ちやん十時半にて辞去、好胤さん松下さん宿泊。

十二月六日、12.5にて好胤さん松下さんと上京、自分文部省藝術会委員会出席、池田、牛原、飯田氏のみにて「麦秋」と「めし」1□□□。五時すぎ大船に寄り、月ヶ瀬にて食事。斉藤君同道茅ヶ崎へ帰る。□□□高橋氏に会ひ、パチンコをして帰る、一時ころ就床

十二月七日 臥床オーレコマイシンを嘗めて眠る。朝、鎌倉より速達と電話あり、九日墓参のことなり、トラちやんも電話に出る。斉藤君出社、夜すしをとる。斉藤君十二時ころ帰宿、いろく飲談二時になる。雨。

十二月八日 十時起床。昨夜の雨晴れて一天雲なく暖かし。斉藤君の「本日休診」を読む。夜、二十扉、トンチ教室を聞き、そのあと、斉藤君にストーリーを語り、いろく語り合ふ。だんく形がハツキリしてくる。

十二月九日 八時起床。9.59にて上京、新橋駅にて一ちやん百合子、静子と会い、バスにて豊島園に行き、ソバを食ひ、山田の亡父の一周忌に臨む。山田の母、久雄夫婦、□子、紘児同席、墓地□□。バスにて新宿に出、天□といふ家にて食事、イセ丹にて分れ、一ノ瀬により、東京駅より帰□

十二月十日 朝、沢村君来訪、「鳩舎」の話なり。一時静子と近代美術館ルオー展に行きしも休館なり。出社、毎月分を受取り、3.37にて箱根清光園へ行く。部会なり。城戸さん高村さん招待。京都より□川君その他出席、城戸さんと大いに語り、二時すぎ中座して就寝。

十二月十一日 城戸さん高村さん十二時帰京。みんな麻雀。自分、□川君と京都の若手同道、茅ヶ崎にて分れ、四時ころ茅ヶ崎館へ帰る。小□君一昨日長岡君と乱酔の由、昨夜帰鎌の由。今夜はなんとなく疲れてみて早寝。

十二月十二日 今日勉さん来訪の筈のところ見えず、コッピ「陽気な渡り鳥」など読む。今日は小津君の誕生日にて上原邸に招かれ、マゝさんに迎えられて行く、マサ子、ムツヨの諸女子、清隆君、章子ちやんなど同席、テープレコーダーなどに興じ、十二時半辞去

十二月十三日。昨夜帰宿後雨になりしも、今日はまた好天気。午後、益子君餅を持

つて来てくれる。夕食後、8.41にて鎌倉に行き市民座に「リオグランデ」□□□を見る トラちゃん玲子同行、満月にて歩いて帰り、小津君一泊。

十二月十四日 晝、鎌劇に「命美はし」を見に行き、大船に行く、月ヶ瀬にて夕食、8.25にて茅ヶ崎に帰り、パチンコ屋に寄り、九時すぎ帰宿。月ヶ瀬のおばさん笠君など早大入学のこと大へん心配してゐる。（宇佐美君の車で駅まで送られる）ライターを失くす。

十二月十五日 快晴暖かし。朝おみおつけに餅を入れて食ふ。大へんうまく、つい沢山たべる。些かもたれ気味なり。何かいゝ案が浮びさうな気がしてゐながら、何かその時を待つ気持。月ヶ瀬、文ちやんと連絡がついた由。

十二月十六日 午後、野坂氏「□」を持つて来てくれる 佐々木君20持参、20宿に渡す、夜、人物配置などに就いて語りながらすし元に行き、パチンコへ廻る。十時すぎ帰宿、すし元の茶のせいか眠り浅く、多愛なき夢を見つづける。

十二月十七日 朝 森さんより松阪大火の報あり、愛宕町も焼け約800戸消失の由、ついでこないだ行つたばかりの土地だけに小津君も感慨一入なり。このごろ餅を食ひつづけ少し満腹つづきの態なり。「□」読了。なかく面白し。⑤

十二月十八日「麦秋」芸術祭賞の旨新聞にあり、一ちゃんより祝電来る。ママさんフロフキを持って来訪。なかくうまし。このところ好天気つづき、ここへ来てから一日も降雨の日なし。夕方、初めて海岸を散歩。グラウンドより駅前の本屋に行き「巴里のアルバム」など求めて帰る。夜、玲子百合子トラちゃんクーより電話。

十二月十九日 昨夜寝るころになつて佐分利の役に子供があつてはどうかといふ話になる。寝つき悪く、しかし八時すぎ目が覚める。午後益子女史おこわ持参、そのあと武一氏来る。すし元のすしをとる。夕方胃痛あり、要心して酒をひかえる。武

一氏9.57にて辞去、カゼ気味胃痛きため自分だけ早く就床。

十二月廿日 朝珍らしく曇、午後新築校舎祝賀のPTAの二次会あり、みんな酔って来て騒いである。夜、食膳□しく、すし元に行く。里見先生より祝電来る。夜空星美しく、この分ならまた天気がつづくならん。胃の具合今日はすっかりよし。

十二月廿一日 晴 朝床屋来る。午後四時すぎ箱根根^{ママ}清光園作協総会に出かける。小津君「めし」と「わかれ雲」を見に平塚行。清水昆氏同車。総会、桜川君上京、三村君など出席、例により笠原君□□でもからむ、うるさし。林文ちやん岸□君出席

十二月廿二日 林岸両氏を誘ひ、四時ころ茅ヶ崎に帰り、大船に電話する。小津君益子女史笠君帰車、早大入学の件打合せ、スキヤキ、岸君胃痛にて元気なし。九時五十分にて散会

十二月二十三日 山本武一君来訪、二十一日の文部省芸術祭の賞金分配10000持つて来てくれる。今日一ちやんトラちやん来訪の筈のところ、それく`都合悪く、来られない旨玲子より電話ある。仕事何か落着かず。

十二月廿四日 小津君市民座の「白晝の血闘^{ママ}」を見るととて、一時ころ出発。自分引上げのため同道 市民座時間悪く、美術館も月曜の休みにて小津君大船へ帰る。夜十一時すぎ玲子と教会のクリスマスに行き、一時半ころ帰宅

十二月廿五日 晝すぎ玲子と美術館にルオーの版画展を見に行き□庵に寄る。雨粧亭に会ふ。夕刻五時すぎ茅ヶ崎より電話あり、スタッフの会、今夕の由なれども、やめる。志賀さんの「或る男その姉の死」を読む。雨になる

十二月廿六日 玲□□□今日一日雨。朝から「或る男」を読みつけ、芥川の「一塊の土」を読む。関口一郎家にて餅をついてくれ、例によつて牛肉三百匁を返礼す

る

十二月廿七日 午後出社、大原さんに簪笄を贈る、高村氏より熱海の□受取り
5.11にて茅ヶ崎に行き益子女史を待てども来らず、茅ヶ崎館に行く。笠君、林氏
岸氏、それに□□氏もあとから来る。タラチャブ タチリ、10.35帰り、十六ずし
に寄る。玲子山内君と東京行、一緒にグリーンハイヤで帰る

十二月廿九日「鳥羽家の子供」を読む 隆史悠子栗餅を持って来る。山内君一升
持って□□に来る。夕食を共にする。昨夜は邦夫□□□を誘って「立花」へ行った
由、小倉遊亀氏の画出来た由。

十二月卅日 山本武一君「麦秋」のアルバムを採って来てくれる。玲子百合子と待
合せ。魚河岸に買出しに行き、邦夫と一緒に帰ってくる。邦夫サルスベリを刈りこ
み、「赤い靴」へ一人で行きとまる。今夕天ぷら。

十二月卅一日、いよく大晦日なり。邦夫大掃除でよく働く。巴里の木下君に返事を
出す。今年にあんまり金なく、稍面白くなし。なんだかんだで一時半までみんな働
いてゐる。自分ラヂオを聞く。今日は一日雨なり。

【以下は巻末の雑記的部分だが、野田のスケッチがあるのであえてここに残した】

M e m o

胃薬

ノルモザン 1.0

□製マグネシア 0.5

ロートエキス 0.06

重曹 5.0

デルマトール 1.5

(以上一日量 分三)

神経痛

グレラン (粉、錠)

ウチタミンabcd

Panvitan (パンビタン) 武田

A B 1 B 2 C、D

ロートボン「註」胃腸の疼痛によし

ロメジン (ズルファミン) タナベ

静 35.9.25

玲 11.8.5

陽 13.5.14

保険 特養35万円 第一生命保険相互会社

24年度総所得金額を基とした25年度総所得額の見積額 藤沢税務署より通知のもの 14,8000 (□□、□□、原作)

銀座モレナのシュークリーム

材木座94 塩川悠子ちゃん (六つ)

(1762 小川氏取次)

中西 鎌倉2166

館山行 汽船

ヨコスカ→タテヤマ 7.00→10.00

タテヤマ→ヨコスカ 2.00→5.00
ウラガ→タテヤマ 1.00→3.00
タテヤマ→ウラガ 8.00→10.00

二十五年度分三期
22,7650

所得税 固有番号
34083

◎は記入を要しないとあるが、◎欄にも記入すること、調査簿 徴収簿、納税簿に
記入する

亡父 大正九年四月十六日
亡母 昭和五年九月廿三日
秀兄 昭和七年二月廿三日
鶴兄 昭和十一年一月九日

佐藤祐正
東京都杉並区方南町2■

土屋健樹

いちびる、いちびってる

入江泰吉
奈良市水□□□四九

京都市河原町丸太町上ル

中山文華堂 京都□□□

矢本正二（築地□□）

巴里通信

ナマキンモドキ

ハミガキ、チリガミ、下着二つ

スリッパ、靴、（上通節）

朝鮮飴、熊本市南新□□町

□□屋（電30）

朝鮮飴

3□ 300 30

4□ 400 35-6

5□ 500 40-

6□ 600 45-50

小包料、2キロ以内 普通85円

普通55円

他に荷造料 10円

長野縣諏訪郡北山村蓼科高原

一久 蓼科百貨店

伊藤 子

矢崎

教□適格確認書

番号10826、月日 昭和25.10.2

(24.11.30. 日大 審査委員会 □□)

□卵素麵

博多市土居町電□□宝来屋

めかりまんじう

門司市栄町4丁目 大友菓子店

亀の甲煎餅

下関市入江町57 江戸□

中□□□□□ 文京区□□町36

大佛開眼（西岡□之助） 各50

大名、町人、百姓（□□□□）

保育社（大阪□□上町）

学習昆虫図鑑 280

// 植物図鑑 300

// 動物図鑑 300

A5判 菊版（中央公論）

A6判 岩波文庫

B5判 サンデー毎日

B6 普通の単行本（四六判）

京都市右京区御室堅町15 伊藤大輔

京都市右京区宇多野馬場町11 溝口健二

京都市右京区龍安寺西ノ川町30 井上金太郎

肥後博 品川区中延4の568

三重縣松阪市愛宕町垣鼻 佐野寛一

// 鳥羽町

大岩武郎

// 鵜飼喬介

四日市市浜口（東駅口）

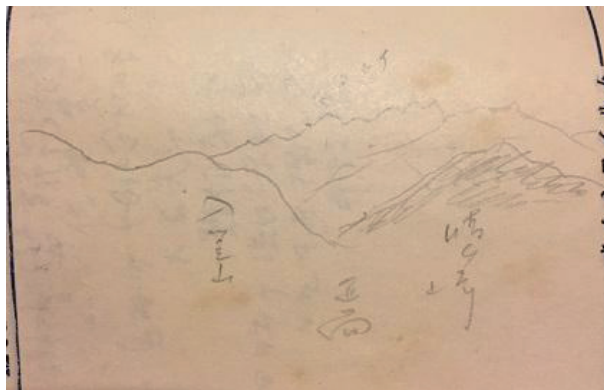
□□□□株式会社

伊阪栄一

木挽町七丁目（林貴利）

（和田金の由）

【註：以下は手帳を横にしてのスケッチ】



ゴムテープ 白 多く20以下

黒 少し10下

税金26年度

徴収簿番号

34083

世田谷区玉川田園調布一の三四〇三 サン・モール修道会修練院内

【註：上記のみ野田と違う筆跡で万年筆書き。次女陽子の手になると思われる】

□□□

パイロット（黄色とブルーの箱）

九月八日 十時

靴を三日分 低くし、ひろげる

12000 □□□□

ピカデリー尾ヶ井武

横浜市中区山本町二九 矢倉□雄

湯川区温泉組合 湯川区□

満一ヶ年地代 二十六年分 465坪

1395円（坪三円の割）

二十六年七月廿四日拂

玲子・名

蓼科尾根□ 古牧久雄 爺

八百屋の小母さん 桜沢

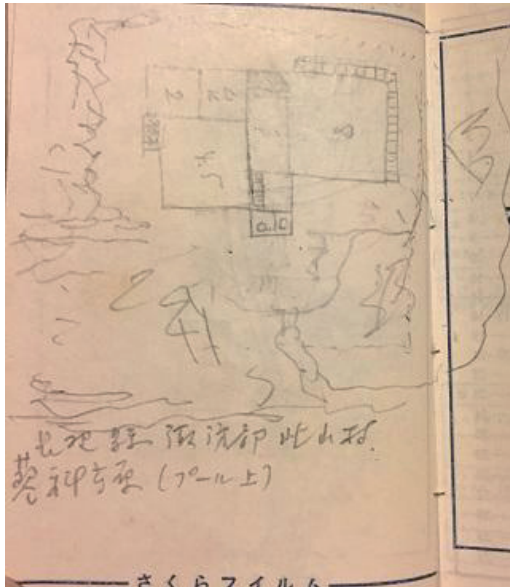
木樵 利一

伊藤「一久」仲子女史

【註：以下は雲呼荘と、周辺の地図】



【註：雲呼荘の間取りと住所】



【註：以下、手帳末尾の住所録＝個人情報に触れると思われる部分は■とした】

陽子 田園調布 (02) 2940

世田谷区田園調布3の1403

サンモール会修練院内

月ヶ瀬 大船174

茅ヶ崎館 茅ヶ崎3 (中海岸)

森さん 築地870

清光園 湯本15

中西 湯河原 5、52、119

明光商事 日本橋4213、2736

1863 5651-3

松華楼（森川 □□）下（05）366 下京区四條木屋町（トングリ下ル）

シナリオ作家協会 東京都千代田区有楽町二ノ三 ピカデリー四階

□道屋 京都市右京区丸太町河原町西

河上英一（讀賣文化部） 東京都（京橋□区内）中央区銀座西3の1

京橋（56）（281-6289）

大船撮影所 大船54、161、168、4512

月ヶ瀬 大船174

明光商事 1863、5651-3 日本橋4213、2736

新東宝宣傳部 銀座西6の1 銀（57）1305

加藤泰弘 名古屋市中区王子町■の■

大映本社 中央区京橋三ノ二 （京橋）（56）5171-8

日下部 世田谷区■の■■■

（世）3236

豪徳寺ガード下を通り右側にスシ屋あり、その前を一丁曲ってすぐ角から曲って三軒目（一丁位）

日大藝術学□ 板橋区江古田町1901
落合長崎3337、3595

植木屋（加藤栄吉） 鎌倉長谷消防署横（神明□）■■■

洋服屋（小林成吉） 横浜市南区家根町■■の■

池内医院 渋谷区（マ）三軒茶屋

新東宝第一撮影□ 世田谷区大蔵町1481（□）216（世）3961-3

新東宝第二撮影□ 世 1971-3

新東宝第二寮 砧607

するがや下里 京都祇園末吉町（□□638）

杵屋□三郎 芦屋市平田町■ 芦屋3290

新藤兼人 逗子■■■

松下憲一 横浜市南区大岡町■■■

佐藤祐正 東京都杉並区方南町■■■

山内久 逗子山ノ根■■■

[昭和26年、了]